

同窓会第60回総会記念誌





創設者 初代理事長
中村由太郎



第2代理事長
第5代学校長・第7代学校長
中村キヤ



第3代理事長
中村覺

剛毅 賢明 正義 校訓

【建学の精神】

一人ひとり顔や性格が違うように、持っている能力も歩む道も違います。
八戸学院光星高等学校では、それぞれの個性を尊重し、持っている可能性を引き出していくことを大事にしています。
私たちは生徒一人ひとりに心を配り、生徒が本校における3年間で自分に適した道を、人生の目標を見つけることができるよう、指導して参ります。

【教育方針】

カトリック精神に則る道徳教育を施し、高尚なる人格の完成を目指し、平和的民主主義社会の有為な人材を育成する。

【校訓】 正義・賢明・剛毅

正義とは「つねに正しく生き 公徳を守り 純粋な心の持ち主であれ」
賢明とは「いつも明るく やさしい心を持って 明敏な判断力の持ち主であれ」
剛毅とは「たくましい心身で気性が強く 強固な意志の持ち主であれ」





第60回総会記念誌

刊行に寄せて

学校法人 光星学院
理事長 法 官 新 一



八戸学院光星高等学校同窓会が60年という歴史を重ね、この度、記念誌が刊行されることに心からお喜びを申し上げます。また、創立以来同窓生の皆様には、溢れる愛校心をもって物心両面にわたるご支援ご協力を賜りましたことに心からお礼を申し上げます。

すでにご存じのとおり、本学院はカトリシズムの精神を根幹において人材育成に取り組み、個性尊重に基づく教育に力を入れております。創立以来半世紀以上の歴史を重ね、実業界、政界、教育界をはじめ多くの人材を輩出し、社会の「地の塩、世の光」となって活躍しています。

さて、光星高校ができた当時、入学生はもちろんですが高い夢と理想を持って奉職した教員たちがいました。強風が吹くと土埃で周囲が見えなくなる校舎に赴任した、カナダ人の神父様のアチール・クルノイエ初代校長先生もその一人でした。先生が待望の体育館が完成し落成の喜びを、昭和34年2月25日発行光星新聞第

5号に次のように寄稿しています。施設の完成は、人間育成の推進に大きな役割を果たしてくれる。また、スポーツの活躍を賛美しながらも次のようなことを述べています。

「単なる知識のみに富んだ学者あるいはスポーツのみに優れた人間を作ることのみが教育の目的ではありません。豊富な知識、しっかりした道徳性、豊かな芸術性、それらが一つに融合したところの円満な人格の完成こそ教育の目的であって、スポーツはその目的がスムーズに遂行されるために必要な手段なのです。」と述べています。私たちは一つの特技の中に、人間としての豊かさを身につけて欲しいと考えています。つまりスポーツはあくまでも学問への一つの道として完成された人間をつくる目的の一つの手段と考えていました。体育館と教室、学問と活動は別物という考えを持ち、心と体のバランスの取れた若人の成長を願っていました。創立当時赴任された先生方の高い志に触れ、新しい学校に魂を吹き込もうとする先生方の強い思いを感じるができる資料です。

私は、本学院の教育方針は、唯一無二の個性を大切にすることとともに、全人教育を目指しています。この全人教育とは、人間形成に最も大事な「真・善・美・聖・健・富」の6つがあり、真は学問の理想、善は道徳の理想、美は芸術の理想、聖は宗教の理想、健は身体の理想、富は生活の理想としています。また、この光星新聞に英語の先生として在職していたベルギー神父先生の記事がありますが、「私達は親しい人に対して抱く愛情を豊かに養い、それを隣人への愛にまで掲げるように努力することが大切である。」と述べられています。さらに「光星学院では、このことを教えなさい。」と述べています。このことは、カトリシズムに則った本学院の建学の精神の根本だと思います。勉強して、知識を身につけると同時に、心を養うと言うことが私たちの学校の考え方であり、「神を敬し、人を愛する」とは、勉強したことを地域に貢献し、心を磨いて人のために役立つことを言っています。

入学式ではいつも建学の精神「神を敬し、人を愛する」について話していますが、神を敬するとは、自分の心を磨くことと考えたいと思います。人を愛するとは、身につけた学びをもって社会に還元することと理解しています。心を磨いて、知識をもって世の中のために役立つことだと思っています。

学校創設当時を思うと、校長先生はじめ先生方が学院の理念に基づき、理想に向かって取り組んだ姿勢が目に見えるようです。これからも先人たちが目指した心意気を大切に、光星学院のこれからは取り組んでいこうと思います。今後とも同窓生の皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。お祝いいたします。



第60回総会記念誌

刊行に寄せて

八戸学院光星高等学校
校長 中村 良 寛

この度の八戸学院光星高等学校同窓会創立60周年記念誌の発刊を心からお祝い申し上げます。そして、昭和36年の本会創立以来、本校の教育を支える礎としての役割を担ってこられましたことに深く感謝いたします。本会の足跡の記録については、昭和63年に会員名簿が作成されましたが、記念誌の編集は今回が初めてだと伺い、同窓生の皆様にとっては喜びもひとしおのことと存じます。

本校は、創設者である中村由太郎先生が「教育の機会均等と、多岐にわたる生徒の個性を尊重しながら、可能性を引き出し、地域に貢献できる人間の育成」を理念に掲げ、昭和31年に教育の第一歩を踏み出してから今年で66年目を数え、創立以来2万5千名を超える卒業生を世に輩出してきました。そして、八戸市内はもとより全国各地において、様々な立場から社会を支える存在となっています。

また、創立当初より「神を敬し、人を愛する」の建学の精神に基づく「正義・賢明・剛毅」の校訓の下、生きて働く知力、健全な精神を支える体力、自らを律し、自立するための意志力、そして協調性に富む人間力の育成を重点に置き、日常の教育活動を展開しております。

私は平成元年から本校に勤務し、今年で34年目を数えます。赴任時に感じたことは「なんと生徒数が多い学校なんだろう！」という驚きでした。ちなみに、過去において一番生徒数が多かった記録は、昭和55年度の2,225人です。もちろん青森県内随一のマンモス校でした。当時は教室が足りず、体育館での集会や行事も分散しないとできない状態で、学校運営が大変だったと聞いています。その年をピークに、徐々に少子化の影響を受け、現在の生徒数は880名ですが、それでも県内2番目の大規模校に位置しています。

また、本校はこれまで幾度かの科またはコースの創設や統合を経てきました。私の専門とする保健体育は、全ての科において必須教科であるため、普通・経営情報・工業技術・保育福祉の4科で担任を経験する機会に恵まれました。そのおかげで実に多種多様かつ多彩で多才な生徒と触れあうことができ、そして、そのことが長年携わってきた生徒指導にも生きていたと思います。

担任、生徒指導部長の他にも、副教頭や教頭も経験させていただき、現職に至るわけですが、その間、何かにつけて頼りになるのが本校同窓会の存在、とりわけ中心となって活動なさっている役員の皆様の強力なバックアップでした。特に忘れられないのが平成9年の夏です。青森県代表として夏の甲子園初出場を果たしたものの、選手が安心して大会に臨み、応援団が安全に往復するための絶対条件をクリアするには準備期間が短く、学校としては五里霧中の状況でした。その霧を晴らすかのように、青空と日光を届けてくださったのが同窓会の皆様でした。大会は初戦でサヨナラ負けを喫しましたが、同窓会のありがたさを痛感した夏でした。あの感動は今でも深く心に刻まれています。

卒業生相互の絆を太くし、在校生の充実した学校生活を支えてくれる同窓会は、本校のみならず他校にもありますが、本校同窓会はひと味もふた味も違う気がします。

まずは、母校に対する熱い想い。一つ例を挙げれば、昭和62年度の「光星会館」の建設です。設計から施工まで、更に詳しく紹介すれば鉄骨組み立てや塗装も含めて、全ての工程や作業は本校卒業生によるものです。

リンカーンの演説での有名な言葉を借りれば、正に「光星の・光星による・光星のため」の会館です。次に、親子が名を連ねる卒業生台帳。今年度の在校生に限ってみても、兄弟姉妹で在籍している生徒、父や母が本校で高校生活を送ったという生徒、中には祖父母までもが本校卒業生である生徒など、同世代から2世代3世代にわたって「東雲高く～きらめく光星～」と口ずさめる家族が少なくないということです。正に「家庭の中にも八戸学院光星高等学校同窓会」が組織されているのです。

結びに、これまでの同窓会の皆様のご支援に感謝し、今後の更なるお力添えとますますのご発展を祈願申し上げます。祝辞といたします。“輝け光星～永遠に～永遠に～”



記念誌刊行にあたって

八戸学院光星高等学校同窓会会長 安井 基悦

この度、第60回記念総会開催にあたり、記念誌を作成すべきと役員・幹事会にて決議され刊行の運びとなりました。同窓会活動の思い出などを記したいと思います。

まず初めに、同窓会にご縁が出来ましたのは、担任でお世話になりました川村光男先生より「お前の力を同窓会に」とのお電話を頂戴したからです。恩師からのご下命により今日まで数十年の間活動を重ねてきた事を思うと、実に従順真面目な教え子ではなからうか。同窓会って何をするんだと不安な思いでドアをノックした事を記憶しています。初めは幹事としてスタート。しばらくの後、副会長であった市議藤川友信氏、山口広道氏が相談役となり、その空いた席に若い安井君をと。そんなものになる為にやってきた訳ではないと固辞しましたが、藤原一紘会長に三度も拙宅訪問されては断りようもなくやむなくお引き受けいたしました。当時は学校行催事の案内が副会長にも。物足りない。役不足だと言われないように全て出席いたしました。大坂康秀会長に代変わりし、副会長の佐々木博司さん、高橋富士男さんたちにご指導いただきました。衷心より感謝。

同窓会活動の中で一番の思い出としては甲子園出場の際の寄付集め活動が特筆されるべきものとの思いが強くなります。サッカー部の最後の全国大会出場後に、悲願である甲子園選抜大会初出場。自分ではさほど集められず、こんなものじゃ全然足りない。中村信夫副校長にどうしてますかと電話をすると、来客の応対をしていると。そんなものは中村キヤ校長に任せて、私と寄付集め回りをしませんか。

よしっ安井さんの手帳を持って来てと、スケジュールを合わせて二人で回りました。鮫の武輪水産から始まり惣宝水産、漁連、八戸水産、マルヨ水産、加工連、加工団地、八戸港湾運送、三菱製紙、太平洋金属、高周波、卸団地、カネイリ、八戸通運、ユニバースなど。

毎回ここには書きれないほど回りました。立派な応接室、豪華な社長室に案内され緊張したものです。自衛隊への訪問は時間指定が。紺色クラウンセダン53-59にて訪問と伝えてあり、陸自門衛が「光星学院さんですね」と下車入場手続きする事もなく隊舎へ直行し司令に面会する事が出来た。印象的だったのは第二航空群海自である。夏の大会で訪問すると、隊舎前に白い制服姿の隊員たちが整列。笛を吹き来訪者を迎え入れる海自独特の儀礼には感動すら覚えた。甲子園出場の際は毎回訪れるので、私の事を学校の職員だと思っていた事業所はかなりあった。頂戴したお名刺は相当数に上る。中村信夫副校長がお亡くなりになられてからは、教頭、事務長らを伴い回りに回った。特に長期間ご一緒頂いたのは日渡文雄先生である。日渡、安井組があまりにも回り過ぎるので、先生方から「私たちの行くところがない」と苦情が出て中断、新規開拓に精を出した。日渡先生が退職され一人で回るようになった。夏の大会時は朝早くから仕事をしてから寄付集めを。昼食後少し横になりまた回る。そして夕方からまたアイスの配達をする日々の繰り返し。橋場校長、高坂事務長時の夏の大会、体調思わしくなかったが、何とか盆前に自分の持ち分を終わらせたいと無理をした。結果、寄付集めの最中にぶっ倒れて救急車で運ばれ、猛暑の真夏一ヶ月間も入院した。もう無理は出来ないと痛感。ありがたい事に、副会長の階上友子さん高橋隆一さんに30件ほど振り分け回ってもらっている。

その後、ある会合で日渡先生と久しぶりに再会。「安井さんが協賛会長になってよかった。安井さんのだけやってきた人はいない。安井さんこそが相応しい。」と言われて、二人で駆け巡った日々を思い起こし感謝の思いを伝えた。振り返ると自身納得の活動は出来たと思う。口先だけで何もやらずに壇上から偉そうな事を話してきた訳ではない。役員としての責任は全う出来たと確信する。

ここに自身の履歴を綴ったのは、お世話になった母校への少しながらのご恩返しとの思いで参集した我ら同窓会役員らが一途にただひたすらに汗を流し続けてきたことを理解してほしい。法人本部にも決して忘れないでもらいたいとの強い思いであります。卒業生の皆さんにも母校に対してのご支援を切に願うものであります。素晴らしい学校になってきた母校 八戸学院光星高等学校はこの先々どのように変化していくのだろうか。50年先100年後の光星を見てみたい。

輝け 光星 永遠に 永遠に

第60回総会記念誌

刊行に寄せて



光星高等学校事務長 中居 渉

八戸学院光星高等学校同窓会が、このたび創立60周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。また、60年という長きに渡る活動の軌跡を記念誌として発刊するにあたり、同窓会を守り育ててこられた歴代会長をはじめ、役員の皆様、会員及び関係各位にあらためて深甚なる敬意を表します。

私が本会に直接携わることになったのは、平成24年（2012年）からとなります。当初は、本校の卒業生ではない私が、青森県でも有数の伝統校である光星高校の同窓生の方々に事務局員として受け入れていただけるかという不安がありました。しかし、実際に携わってみると、それは一瞬にして杞憂に終わったことが思い出されます。右も左も分からない私に対して、役員の方々のご自身の在学中の出来事や当時の思い出話等、興味深いエピソードを数限りなく教えてくださいました。皆様の話は時を隔てたものとはいえ、どれも臨場感にあふれ、目の前で繰り広げられているかのようなリアルな内容でした。皆様の母校に対する思いの深さや強さが伝わってくることで、いつの間にか私は、単に事務局の人間として籍を置いているだけではなく、光星高校や本校同窓会のことを心から好きになっていきました。それは、分け隔てなく温かく受け入れてくださる役員の皆様の醸し出す空気感や、母校へのポジティブな愛情がストレートに伝わりながら膨らみ続ける雰囲気、本会の特色として受け継がれているからだと思います。

現在も事務局員として活動する中で、会長をはじめとする役員の皆様の母校に対する並々ならぬ愛情と熱意を様々な場面で強く実感しています。具体例を挙げると、本校の部活動生に対するエール、新旧同窓生の交流の場となる総会の開催、関東支部や三沢・十和田支部総会の活性化、硬式野球部の甲子園大会出場に際しての寄付活動、同窓会入会式における卒業生への激励等、正に枚挙にいとまがありません。そして、役員の皆様が一致団結し、率先して自ら汗を流しながら各種活動に取り組まれる姿は、私が本会に携わり始めた頃も10年経った今もまったく変わっていません。

近年はコロナ禍により本会の活動も制限を余儀なくされているにもかかわらず、同窓会本部および関東支部における活動は衰えを見せることはありません。それどころか、本会の活性化のためにSNSを利用して同窓生間の交流を促進したり、ホームページ等を駆使して情報発信に傾注したり、ますます熱を帯びている気がします。

創立60周年という大きな節目を機に、これまで築き上げてこられた本校同窓会の輝かしい歴史と伝統を未来へつなぐとともに、これからも本校へのサポート及び会員相互の懇親のための活動を続けていただけるものと確信しております。

結びに、八戸学院光星高等学校同窓会がさらなる発展を遂げられますことを祈念し、お祝いのことばといたします。



八戸学院（光星学院）高等学校の変遷

主なできごと

- 昭和31年（1956）4月18日 光星学院高等学校創立記念日
昭和36年（1961）4月1日 商業科設置
昭和39年（1964）4月11日 第1回女子生徒入学
昭和40年（1965）3月1日 昭和39年度リッカースポーツ賞受賞
昭和41年（1966）4月1日 自動車科設置
昭和42年（1967）4月1日 機電科・建築科*保育科設置
昭和63年（1988）8月25日 同窓会名簿発行
12月27日 運輸大臣より一種自動車整備士養成施設指定校認可
昭和44年（1969）3月1日 生徒会誌「飛翔」創刊
4月1日 Lクラス(特別進学クラス)設置
昭和49年（1974）4月1日 事務科・機械科・電気科設置
昭和51年（1975）3月31日 機電科を機械科・電気科へ移管
昭和59年（1984）4月1日 情報経理科設置
昭和61年（1986）7月18日 韓国・東北高等学校と姉妹校締結
昭和63年（1988）2月24日 光星会館(生徒会館)竣工 ※同窓会より1,000万円寄贈
昭和63年（1988）8月25日 同窓会名簿刊行
平成元年（1989）11月10日 創立35周年記念式典挙行
平成2年（1990）4月1日 福祉科設置
平成5年（1993）7月4日 米国・ワシントン州フェデラルウェイ・ディケーター高校と姉妹校締結
平成7年（1995）3月10日 カナダ, リッチモンドインターナショナル高校と姉妹校締結
平成9年（1997）4月1日 普通科◆経営情報科・工業技術科・保育福祉科の4学科・各学科12コースに再編
平成15年（2003）10月29日 NEWわかふじ国体(静岡)で硬式野球部初優勝
平成16年（2004）4月1日 普通科, ビジネス科・工業技術科・保育福祉科の4学科・各学科8コースに再編
平成18年（2006）9月25日 坂本勇人選手が読売巨人軍に高校生ドラフトで一巡目指名
11月11日 創立50周年記念式典挙行
平成20年（2008）4月1日 新校舎竣工
5月9日 新校舎完成祝として同窓会より時計塔を寄贈
平成21年（2009）11月16日 第21回八戸市まちなみ景観賞空間部門受賞
平成22年（2010）1月6日 カンボジア・カムリエン高校と姉妹校締結
平成23年（2011）8月20日 第93回全国高等学校野球選手権大会準優勝
平成24年（2012）4月4日 第84回選抜高等学校野球大会準優勝
8月23日 第94回全国高等学校野球選手権大会準優勝(3季連続準優勝)
平成25年（2013）4月1日 八戸学院光星高等学校へ校名変更
6月25日 エドグレインハイスクール(米軍三沢基地内)と姉妹校締結
平成27年（2015）12月20日 第66回全国高等学校駅伝競走大会初出場
平成30年（2018）4月1日 普通科■保育福祉科・ビジネス科・工業技術科単位制導入
平成31年（2019）4月1日 2学科(普通・保育福祉)5コース(特進・進学・総合学習・保育・福祉)に改編
令和2年（2020）4月1日 2学科(普通・保育福祉)6コース(特進・進学・総合学習・スポーツ科学・保育・福祉)に改編



叙勲者・功勞者

瑞宝双光賞
同窓会幹事長 笹垣 昇（昭和34年度普通科第2期生）

令和元年春の叙勲として「瑞宝双光章」を受賞して 皇居へ参内し天皇陛下に拝謁の栄を賜り感激 先輩、同僚、後輩、同窓会の皆様に感謝

第2回卒業生 笹垣 昇

今から3年前の2月中旬ごろ、県の担当者の方から、あなたを春の叙勲に推薦したいのですが、受けていただけますかといわれました。そこで私は一瞬驚きました。今まで公立学校に35年間、県教育委員会指導主事として3年間勤め教育行政の職務の遂行に努力してきましたが特別に成果を上げてきたとは思っていませんし、叙勲をもらえるとは夢にも思ってもみたこともなく、考えてみたこともありませんでした。このことを担当者の方にお話しをしながら、こんな私でもお受けしてよろしいのですかと応えたように記憶しています。すると、担当者の方から、叙勲推薦審議委員会で審議の結果、適当であると判断したから推薦したいという事になったのですと答えてくれました。それでは僭越で恐縮ですが、叙勲推薦して頂いたことを了解しますと答えました。担当者からは、県の推薦者を文部省に推薦しますが、そこからいろんな段階を経て、最終的には国会において内閣の閣議で決定されます。新天皇の即位もあり、いろんな事情がありますので、最終決定は数か月かかるでしょう。今後は適宜連絡をしますとのことでした。

私は元年になる頃には、保育園で働き園長職を務めていましたので、卒園式も近くなり職務遂行に夢中で取り組んでいましたので叙勲に関してのことは考える余裕などありませんでした。

日々、保育園の4月の入学式、保育園の令和元年度の事業計画を作成していた5月15日ごろの昼休み時間中に、新聞社の記者の方から電話あり、正式には5月21日、全国一斉に新聞報道等で叙勲者の名簿が発表されます。それで、あなたも叙勲者に内定されていますので取材に伺いたいのですがと言われて初めて知ったのです。同時に授賞式は5月28日であることも分かりました。その後文部省や県から同様な内容で「瑞宝双光章」に決定された通知がありました。

授賞式までは1週間しかない中での準備でしたから大変でした。ホテル探し、服装等の準備、持参物や心構えなど、いろいろと心の準備等であわてました。その時、県内にある業者の方から、当日の日程や様々なことを教えていただき、安心して行くことができました。

朝起きて、少し早めにモーニングに着替え、持参物の確認をしながらホテルのロビーで待つことにしました。ホテルには昨晚のうちにタクシーの予約をお願いしました。当日の朝は予約でタクシーは満杯なのです。でも職員さんは、約束の時間までにホテルの前に手配するとのことでした。〔ちょうど米国のトランプ大統領が国賓として来日しており、特に国会、皇居、国立劇場等の周辺の道路は、大勢の警察官が万全体制を敷いて警備していました。なお、昨晚は皇居の豊明殿で大統領を歓迎する大饗宴が催され、日本を代表する国民の多数が臨席されていました。今日のお昼には大統領が離日されるので、その前に天皇陛下に挨拶のため皇居へ立ち寄りとのこと。〕天皇陛下は、分刻みで行動なさっており、大変多忙な生活を送っているんだなあと思いました。

令和元年5月28日、授賞式が行われる会場である国立劇場に向かいました。会場に入りましたら、元小・中学校の校長先生をやられた方だけでなく、元大学の先生、元高等学校の校長先生、元学校医の先生、元学校薬剤師の方々等、文部省関係のお仕事をなさり、功績をあげた方々、約数百人ほどの人が全国から出席されていました。

授与式は、午前10時から始まりました。文部科学大臣の勲記勲章の伝達式に参列し、無上の感激を覚えました。式終了後、皇居へ参内しました。皇居に到着したのが午前11時30分ごろでしたが、各省庁ごとに時間が決められているためバスの中で1時間ほど待機しました。やっと文部省関係の順番がやってきたのが、12時30分頃でした。

「豊明殿」の玄関前までバスを横付けに下り、急いで会場に入りました。各班には職員の方が居て、並ぶ位置も決められていて、しばらくの間、天皇陛下がお見えになるのを待ちました。拝謁、慈愛に満ちた天皇陛下からは、威厳を超えた優しさで包まれた温かいお姿が感じられました。更に天皇陛下がご退席される際に、宮内庁長官の先導のもと、受賞者の前と真ん中のあたりを中心にして回られ、途中1.0メートルおきぐらいに立ち止まり、右側、左側

を向いて会釈をされました。私が立っている丁度前を通りがかる際にも立ち止まり会釈をされました。私と1メートルしか離れていませんでしたので、更に感動が深まりました。

豊明殿での拝謁が終わった後、各グループごとに記念写真の撮影になるのですが、約2時間ぐらい待たなくてはならないということで、その過ごし方に苦労しました。休憩するための椅子がないのです。高齢者にとっては「豊明殿」だけが待機場所になっていました。特別に体調がすぐれない人のためには休憩室が設けられ、椅子がおかれていました。そこには何人も入れないのです。そこで私は、見学できるところを歩いて見ることにしました。「長和殿〔ちょうわでん〕という棟は、全長160メートルに及びます。ここは天皇陛下が、新年と天皇誕生日に、中央部のベランダにて、皇后陛下、皇族の方々等がお立ちになる場ではないかと想像しました。初めは気づかなかったのですが、中央部のあたりに立って外を眺めて見ているうちに、テレビニュースで見た風景と似ていると思ったのです。後で皇居の職員の方に聞いたら「天皇陛下がベランダにお立ちになり、新年と天皇誕生日に、皇后陛下、皇族方と国民の祝意をお受けになりお言葉をお述べになります。」と答えてくれました。前の広場には一度に約10万人の国民が入れる広さがあるとのことでした。皇居の中には10棟の建物が別々に立っているそうです。中庭も、豊明殿、長和殿の窓から2か所ほど眺めることができました。この素晴らしい庭園を見て、とても感動させられました。やがて記念写真撮影の時間となりました。記念写真撮影が終わったのが15時45分頃でした。皇居に滞在していた時間は約4時30分ぐらいだったと思います。大分長い時間でしたが緊張していたせいか疲れを感じないまま、文部省が用意してくれたバスで東京駅まで送っていただきました。

これで全日程を終了したんだなと思ったら、どっと疲れがでてきました。ちょっと駅で休憩しながら新幹線の発車時刻を待って乗車しました。新幹線の中では、ぐっすりと眠っていました。家内と一緒にだったので声を掛けられ目を覚ましたら八戸駅に到着となりました。自宅に着いたのは夜の10時近くだったと思います。ゾファで休みながら今日1日を振り返って見ることにしました。

さて、今回の「瑞宝双光章」の勲記、勲章の授与式では、皇居へ参内し、天皇陛下に拝謁の栄を賜り、感激と感動で胸が一杯になりました。私にとって予期せぬ出来事で身に余る光栄なことと強く思った次第です。今までに私が出逢えた人たち、先輩、同僚、後輩、同窓会役員など全ての人に感謝しています。78歳に達する来し方を振り返ってみて叙勲に値する生き方であったかと、思うと恥ずかしい限りです。この度、皇居に参内したことは生涯で強く残る1ページでした。私が思うに、出会いは人生であり、運命であると思っています。

今後も出会いを宝とし、一期一会を大事にして語り合い、絆を深めていきたいと思っています。

今後は一層精進し、些かなりともご芳情に報いたいと思っています。特に同窓会の皆様とは交流と親睦を深め、光星高等学校の益々の発展に支援していきたいと思っています。叙勲受賞の所感とします。



東奥日報2021年4月5日掲載





平成18年4月29日 藍綬褒章
元副会長 山本正文 (昭和37年 普通科第5期生)



以下の文章は山本正文さんに高橋隆一副会長が聞き取りしました。

先輩が入学したときは三沢から何人光星に来ていましたか？

私一人だ。その後からどんどん増えていったよ。

通学は？

三沢駅から白銀駅まで列車だ。たまにバイクで通っていた。

マラソン大会の時は1年生でありながら、最後尾で救急隊を兼ねた監視役をしたのが面白かった。上級生にハッパをかけて楽しんだよ。当時珍しいバイクで通っていたから担任に監視役を任されたよ。

体育祭の思い出は？

陣地造りに、1週間ほど前から山に行ってお木・杉の葉や枝を集めて、木材で骨格を造り枝や葉で飾ったもんだよ。

部活は？

バレーボール部だが、ほとんど帰宅部だったよ。

校舎での思い出は？

春先の土埃は光星名物だね。隙間から入る埃は何度拭いても入ってくるから、早弁はあたりまえだよ。

埃が入る前に食べないと大変なことになるからな。

イカのカーテンはあたりまえにその辺にあったから臭いも湊名物で、光星も湊の臭いがすごかった。

三沢支部は先輩達で作ったんですか？

そうだね。当時は沢山の卒業生がいて、キヤ先生も参加され、とても盛り上がったよ。





同窓会会計 市川 国堤
 昭和39年度
 商業科第2期生
 特選謙慎賞
 2018年3月(平成30年)



同窓会創立60周年 誠にお目出とうございます。入学時の細かい点は忘れましたが、ほとんどバス通学で、上柳町で降りて高校迄早速で歩く毎日。記憶では、坂の途中にはイカのカーテンがずらり、肝の匂いなのか気分が悪く、急ぎ足で通り過ぎてまして、2年になる頃は慣れました。今では両側家でビッシリと隔世の感ですね。

校舎は平屋建てで、あたりは田圃で、うちはポツンポツンと、校舎迄は細い道で今では県道となっております。

部活は空手部で、当時はブルースリー、ボディビル界のスーパースターに憧れ入部、身体的には筋肉質になり、対抗試合がなく、ひたすら練習の毎日でした。

教室のうしろは広い校庭で、春になると光星名物「春アらし」。ストーブの煙突から砂がザーと入ってきて授業が出来きる状態でなく、中村キヤ校長のマイクが入り、午前で終わり喜んだものです。

修学旅行は一番の思い出になりました。

この60年近くの間には学校が年々立派になり、あらゆるスポーツで活躍、プロになった方、躍進めざましいものがあり、皆さんに知られる様になり、うれしく鼻が高い気持ちです。

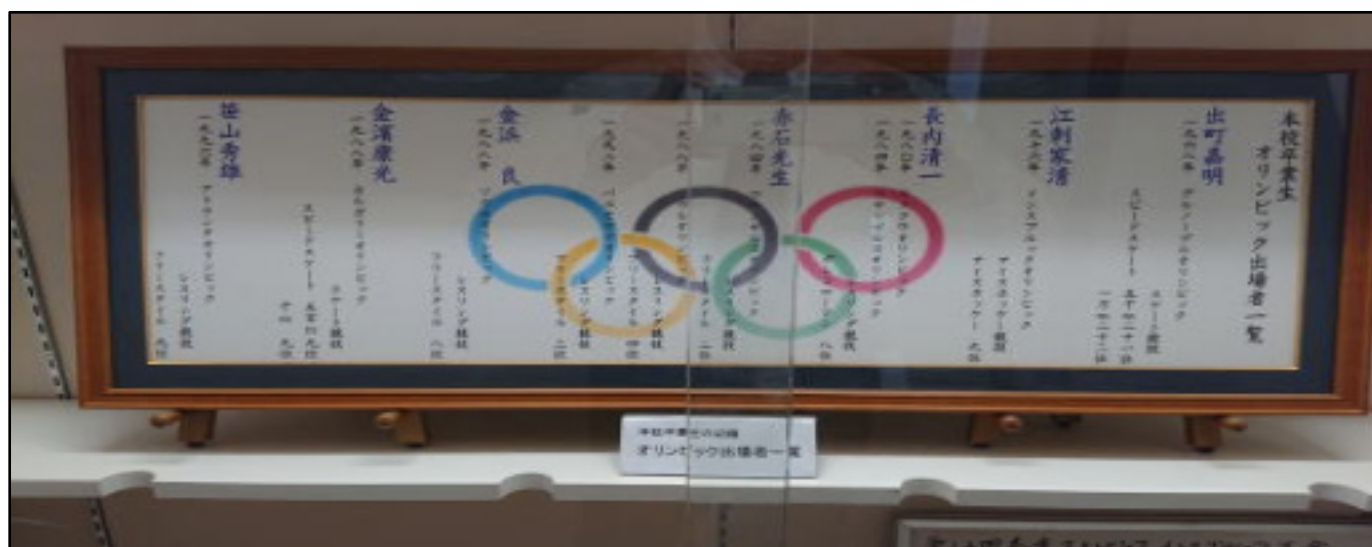
又、国際的にも外国との姉妹結絆や、光星高校もいち高校ではなくインターナショナルになっており、外国から、どんどん受け入れ、英会話部、通訳部、スポーツに於いては、ホームステイでお互い交流されており、グローバルに活躍できる人材になって欲しいと思います。

益々の発展をご祈念申し上げます。

青森県議会議員・市議会議員・町長・村長

氏名	備考	卒業年度
吉田 淳一	八戸市議会議員第8期目（平成28年・29年度議長）	昭和39年度
藤川 友信	元青森県議会議員	昭和41年度
小比類巻 正規	青森県議会議員1期目	昭和44年度
山口 広道	元八戸市議会議員	昭和44年度
田名部 和義	元八戸市議会議員（平成25年・26年度議長）	昭和45年度
櫻井 雅洋	新郷村村長第2期目	昭和45年度
中村 豪邦	元八戸市議会議員	昭和51年度
岡本 正善	洋野町町長1期目	昭和60年度

オリンピック出場者一覧



NO.	開催年	大会名	競技・種目等	氏名	備考
1	1968年(昭和43年)	グルノーブル	スピードスケート5,000・10,000メートル代表	出町嘉明	
2	1976年(昭和51年)	インスブルック	アイスホッケー代表	江刺家清	
3	1980年(昭和55年)	モスクワ	レスリング グレコローマンスタイル62kg級代表	長内清一	
4	1984年(昭和59年)	ロサンゼルス	レスリング フリースタイル62kg級代表	赤石光生	銀メダル獲得
5			レスリング グレコローマンスタイル62kg級代表	長内清一	第8位
6	1988年(昭和63年)	カルガリー	スピードスケート500・1,500メートル代表	金濱康光	
7	1992年(平成4年)	ソウル	レスリング フリースタイル68kg級代表	赤石光生	第4位
8			レスリング フリースタイル57kg級代表	金浜良	第8位
9	1992年(平成4年)	バルセロナ	レスリングフリースタイル68kg級代表	赤石光生	銅メダル
10	1996年(平成8年)	アトランタ	レスリング フリースタイル52kg級代表	笹山秀雄	

同窓生の活躍 (オリンピック出場)



卒業年度 37年度卒業
 名 前 出町 嘉明
 大会名 1968年第10回冬季オリン
 ピック・グルノーブル大会
 競技名 スピードスケート、5,000m
 10,000m出場



卒業年度 41年度卒業
 名 前 江刺家 清
 大会名 1976年第12回冬季オリン
 ピック・インスブルック大会
 競技名 アイスホッケー



卒業年度 46年度卒業
 名 前 長内 清一
 大会名 1984年第23回夏季オリン
 ピック・ロサンゼルス大会
 レスリング(グレコローマ
 ン・スタイル)62kg級



卒業年度 50年度卒業
 名 前 金浜 康光
 大会名 1988年第15回冬季オリン
 ピック・カルガリー大会
 競技名 スピードスケート、1,000m



卒業年度 57年度卒業
 名 前 赤石 光生
 大会名 1984年第23回夏季オリン
 ピック・ロサンゼルス大会
 1988年第24回夏季オリン
 ピック・ソウル大会
 競技名 レスリング(フリー・スタ
 イル)62kg級 レスリング
 (フリー・スタイル)68kg級




卒業年度 59年度卒業
 名 前 金浜 良
 大会名 1988年第24回夏季オリン
 ピック・ソウル大会
 レスリング(フリー・スタ
 イル)57kg級

プロ転向選手一覧

プロ野球選手一覧

No.	入団年度	ドラフト順位	氏名	ポジション	入団チーム	備考
1	2001年	2位	洗平竜也	投手	中日ドラゴンズ	一軍公式戦出場なし(通算6年)
2	2001年	4位	根市寛貴	投手	読売巨人軍	一軍公式戦出場なし(通算6年)
3	2006年	大学生 社会人	松崎伸吾	投手	東北楽天ゴールデンイーグルス	
4	2007年	1位	坂本勇人	内野手	読売巨人軍	MVP・首位打者・最多安打・最高出塁
5	2010年	3位	下沖勇樹	投手	福岡ソフトバンクホークス	一軍公式戦出場なし(通算4年)
6	2012年	1位	川上竜平	外野手	東京ヤクルトスワローズ	一軍公式戦出場なし(通算5年)
7	2013年	2位	北條史也	内野手	阪神タイガース	
8	2013年	3位	田村龍弘	捕手	千葉ロッテマリーンズ	
9	2016年	育成5位	呉屋開斗	投手	中日ドラゴンズ	一軍公式戦出場なし(通算1年)
10	2017年	育成3位	田城飛翔	外野手	福岡ソフトバンクホークス	
11	2020年	6位	武岡龍世	内野手	東京ヤクルトスワローズ	
12	2020年	育成3位	伊藤大将	内野手	福岡ソフトバンクホークス	



伊藤 大将
福岡ソフトバンクホークス

①3年間、辛かった時に頑張れた秘訣・方法は?
辛くても支えてくれる仲間がいたから、野球をしてもできない仲間の分まで頑張ろうと思えたから。

②座右の銘(心にとめている言葉など)
至弱より始まり
やがて至強に至る

③地元から八戸に来て一番不安だったことは?
寒さ対策。冬を乗り越えられるかが一番不安だった。

④まず初めに親のためになにかしたいことは?
帰返し

⑤プロになったらどんな選手になりたいか。
たくさんの人に夢や希望を与えられる選手になりたい。



武岡 龍世
東京ヤクルトスワローズ

①3年間、辛かった時に頑張れた秘訣・方法は?
プロ野球選手になるという目標があったので、自然に厳しい練習にも耐え、頑張ることができた。

②座右の銘(心にとめている言葉など)
英雄は孤独なり

③地元から八戸に来て一番不安だったことは?
寒さの心配、寮生活をやっていけるのか等不安なことはたくさんあった。

④まず初めに親のためになにかしたいことは?
親には本当に世話になったので、感謝の気持ちということで契約金をあげたいと思っている。

⑤プロになったらどんな選手になりたいか。
ファンの人や周囲の人々から好かれ、応援されるような選手になりたい。



石ヶ森 荘真
ヴァンラーレ八戸FC

①夢が一つ叶ったけれど、次の新たな目標は?
試合に出場し、勝利に貢献すること。J2昇格に貢献できるよう頑張ります。

②憧れの選手・目標としている選手は?
本田 圭佑選手です。
勝負強さと、メンタルのすごさに感動しあこがれています。

No.	氏名	メッセージ・研究内容・獲得タイトル等
13	小比類巻 貴之 キックボクシング	1997年デビュー ISKAオリエントタル世界スーパーウエルター級王者 WORLD MAX2004 - 2005 - 2009日本王者
14	原田 惇 レーシングドライバー	

レーシングドライバー 原田 惇



皆様こんにちは。平成14年卒業生の原田惇と申します。

光星学院在学中は多くの方々に大変お世話になり、多くの貴重な経験をさせて頂きました事を心より御礼申し上げます。当時の経験は私の基礎となり現在でも生き続けております。

私は幼少の頃から自動車が好きで、補助輪付きの自転車でも路線バスと競争し怒られながら育ちました。14歳の時に父に頼み込み競技用レーシングカートでのレースを始めまして、中学三年生の頃には東北地方選手権にてシリーズ2位となりました。更なる高みを目指し、当時カートレースで活躍されていた光星学院OBの北上先輩の影響と父の母校と言う事もあり光星学院に入学致しました。当然「カーレース部」などと言う部活動は存在するはずも無いのですが、個人でレース活動をする自分にトレーニング室の開放やレース参戦時の公欠扱い等、非常に柔軟な対応を頂きました。そして何よりマンツーマンで指導下さった恩師の河原木勝歳先生には、レース活動以外でも実に多くの事を学ばせて頂き、心より感謝致しております。高校卒業後は単身海外に渡りアジア圏内を転戦する「フォーミュラールノー アジアシリーズ」に参戦し、同年秋にマカオの市街地道路を封鎖して行われる「マカオGPフォーミュラールノー」では参加日本人最高位の2位を獲得しました。その後は日本のホンダが主催するフォーミュラードリームシリーズにフル参戦。年間ランキング2位の成績を収めました。が、「F1ドライバーになる」と言う自身の夢には届かなく、この年を最後にレース活動を終了する決断を致しました。

その後は父の設立した会社「丸憲運輸(有)」にて常務取締役として日々を過ごし、トラック協会青年部会活動や、地元東北町の発展に関する活動の日々を送っております。

現在でも各地で活躍されている同級生や光星学院OBの方々を目にすると大変嬉しく同時に気持ちが引締まる思いです。最後に近年の卒業生の皆様。本校での経験を活かし社会でご活躍されます事を心より期待致しております。



全国大会優勝者 (団体)

レスリング団体戦

1971年(昭和46年)第24回全国高等学校総合体育大会
48kg級 島守 利雄 52kg級 大崎 正則 56kg級 太田 利光 60kg級 滝尻 善博
65kg級 小泉 清一 70kg級 小笠原 勝 70kg級以上 若松 昌広

1979年(昭和54年)第32回全国高等学校総合体育大会
48kg級 高橋 宏 52kg級 石田 譲二 56kg級 西村 潔 60kg級 友藤 威
65kg級 中田 薫 70kg級 谷川 英樹 70kg級以上 坂井 淳

1982年(昭和57年)第35回全国高等学校総合体育大会
48kg級 貝森 雅広 52kg級 下沢 明夫 56kg級 清藤 直博 60kg級 斎藤 新治
65kg級 赤石 光生 70kg級 坂野下 喜三 70kg級以上 呑香 龍二

1983年(昭和58年)第36回全国高等学校総合体育大会
48kg級 松山 等 52kg級 大尻 義幸 56kg級 清藤 直博 60kg級 小野 隆之
65kg級 吉川 勝 70kg級 尾形 勝志 70kg級以上 奈良岡 豊

1984年(昭和59年)第37回全国高等学校総合体育大会
48kg級 岩間 一人 52kg級 金浜 良 56kg級 木村 義治 60kg級 花田 秀逸
65kg級 倉館 健 70kg級 関川 清人 70kg級以上 浅沼 俊幸

1985年(昭和60年)第38回全国高等学校総合体育大会
48kg級 笹山 秀雄 52kg級 古川 修 56kg級 兜森 衛 60kg級 下沢 和也
65kg級 山口 公大 70kg級 小坂 明 70kg級以上 久米田 雅勝

1981年(昭和56年)第25回全国高等学校選抜大会
48kg級 小田桐 秀徳 52kg級 角地山 豊 56kg級 斉藤 新治 60kg級 赤石 光生
65kg級 中村 勝男 70kg級 赤石 明雄 70kg級以上 呑香 龍二

1982年(昭和57年)第26回全国高等学校総合体育大会
48kg級 貝森 雅広 52kg級 下沢 明夫 56kg級 清藤 直博 60kg級 斎藤 新治
65kg級 赤石 光生 70kg級 坂野下 喜三 70kg級以上 呑香 龍二

1983年(昭和58年)第27回全国高等学校総合体育大会
48kg級 松山 等 52kg級 大尻 義幸 56kg級 清藤 直博 60kg級 小野 隆之
65kg級 吉川 勝 70kg級 尾形 勝志 70kg級以上 奈良岡 豊

1984年(昭和59年)第28回全国高等学校総合体育大会
48kg級 岩間 一人 52kg級 金浜 良 56kg級 木村 義治 60kg級 花田 秀逸
65kg級 倉館 健 70kg級 関川 清人 70kg級以上 浅沼 俊幸

全国大会優勝者 (団体)

1986年(昭和61年)第30回全国高等学校総合体育大会
48kg級 小笠原 俊郎 52kg級 藤村 和人 56kg級 花田 秀実 60kg級 我満 衛
65kg級 石沢 常光 70kg級 津内口 隆 70kg級以上 上小沢 健一

硬式野球

2003年(平成15年)第58回国民体育大会
桑鶴康弘 明戸裕治 東原政二 有木誠 田中芳樹 鹿内弘樹 森野健太 日向端悠太 田中隆彦
永田准士 芋生龍一郎 下屋敷聡 谷和彦 木村孝広 西上裕貴 小比類巻英央

2011年(平成23年)明治神宮外苑創建85年記念
第42回明治神宮野球大会
金沢湧紀 田村龍弘 武田聖貴 城間竜平 大杉諒暢 北條史也 村瀬大樹 木村拓弥 天久翔斗
松浦凌弥 伊藤裕貴 吉田慎司 古寺真也 岸川堅太 野崎健太 平泉龍也
関口隆祥 滝本拓也

フィギアスケート

1985年(昭和60年)第38回全国高等学校総合体育大会
柳沢 美智子 大隅 ちはる 伊保内 計

1986年(昭和61年)第39回全国高等学校総合体育大会
柳沢 美智子 大隅 ちはる 伊保内 計

坂本勇人選手おめでとう

本校平成18年度卒業の読売巨人軍坂本勇人選手が、
令和2年11月8日に2000本安打を達成しました。
この快挙は、プロ野球史上53人目であり、31歳10ヶ月での達成は、右打者では最年少の記録です。



硬式野球部OB会会長

畑中氏と安井会長 甲子園ベスト4 祝賀パレード



国体優勝祝賀会

全国大会優勝者

個人一覽

NO.	開催年	大会名	競技・種目等	氏名
1	1959年(昭和34年)	第8回全国高等学校選手権大会	スピードスケート5,000メートル	町田隆雄
2	1962年(昭和37年)	第11回全国高等学校選手権大会	スピードスケート5,000メートル	出町嘉明
3	1962年(昭和37年)	第15回国民体育大会	ボクシング	増淵修
4	1964年(昭和39年)	第18回全国高等学校総合体育大会	ボクシングウェルター級	吉田淳一
5	1964年(昭和39年)	第19回国民体育大会	ボクシング	吉田淳一
6	1964年(昭和39年)	第19回国民体育大会	ボクシング	浪岡章吾
7	1966年(昭和41年)	第19回全国高等学校総合体育大会	ボクシングライトミドル級	笹本博一
8	1971年(昭和46年)	第26回国民体育大会	レスリンググレコローマンスタイル65kg級	小泉清一
9	1971年(昭和46年)	第26回国民体育大会	レスリング グレコローマンスタイル70kg級	横山勝幸
10	1972年(昭和47年)	第27回国民体育大会	レスリングフリースタイル70kg級	横山勝幸
11	1973年(昭和48年)	第22回全国高等学校選手権大会	スピードスケート1,500メートル	宮古政則
12	1973年(昭和48年)	第28回国民体育大会	スピードスケート1,500メートル	宮古政則
13	1973年(昭和48年)	第28回国民体育大会	レスリングフリースタイル65kg級	奥瀬隆
14	1976年(昭和51年)	第29回全国高等学校総合体育大会	レスリングフリースタイル52kg級	横山勝正
15	1977年(昭和52年)	第30回全国高等学校総合体育大会	レスリングフリースタイル56kg級	横山勝正
16	1977年(昭和52年)	第32回国民体育大会	レスリングフリースタイル56kg級	横山勝正
17	1977年(昭和52年)	第30回全国高等学校総合体育大会	レスリングフリースタイル70kg級	野崎由明
18	1977年(昭和52年)	第32回国民体育大会	レスリングフリースタイル70kg級	野崎由明
19	1978年(昭和53年)	第21回全国高等学校選抜大会	レスリングフリースタイル75kg級	吉田洋一
20	1978年(昭和53年)	第31回全国高等学校総合体育大会	レスリングフリースタイル75kg級	吉田洋一
21	1978年(昭和53年)	第33回国民体育大会	レスリング フリースタイル87kg以上級	坂井淳
22	1979年(昭和54年)	第34回国民体育大会	レスリング フリースタイル87kg以上級	坂井淳
23	1979年(昭和54年)	第32回全国高等学校総合体育大会	レスリングフリースタイル75kg以上級	坂井淳
24	1979年(昭和54年)	第34回国民体育大会	レスリング フリースタイル48kg級	高橋宏
25	1979年(昭和54年)	第34回国民体育大会	レスリング フリースタイル56kg級	西村潔
26	1979年(昭和54年)	第22回全国高等学校選抜大会	レスリング フリースタイル56kg級	西村潔
27	1979年(昭和54年)	第32回全国高等学校総合体育大会	レスリング フリースタイル56kg級	西村潔
28	1979年(昭和54年)	第34回国民体育大会	レスリングフリースタイル60kg級	友藤威
29	1979年(昭和54年)	第22回全国高等学校選抜大会	レスリング フリースタイル60kg級	友藤威
30	1979年(昭和54年)	第32回全国高等学校総合体育大会	レスリング フリースタイル60kg級	友藤威
31	1979年(昭和54年)	第34回国民体育大会	レスリング フリースタイル65kg級	中田薫
32	1979年(昭和54年)	第32回全国高等学校総合体育大会	レスリングフリースタイル65kg級	中田薫
33	1979年(昭和54年)	第34回国民体育大会	レスリング フリースタイル75kg級	谷川英樹
34	1979年(昭和54年)	第32回全国高等学校総合体育大会	レスリングフリースタイル75kg級	谷川英樹
35	1980年(昭和55年)	第23回全国高等学校選抜大会	レスリング フリースタイル75kg級	谷川英樹
36	1980年(昭和55年)	第35回国民体育大会	レスリングフリースタイル75kg級	谷川英樹
37	1980年(昭和55年)	第33回全国高等学校総合体育大会	レスリング フリースタイル75kg級	谷川英樹
38	1980年(昭和55年)	第35回国民体育大会	レスリング フリースタイル65kg級	中村勝雄
39	1981年(昭和56年)	第24回全国高等学校選抜大会	レスリングフリースタイル65kg級	中村勝雄
40	1981年(昭和56年)	第34回全国高等学校総合体育大会	レスリングフリースタイル65kg級	中村勝雄
41	1981年(昭和56年)	第36回国民体育大会	レスリング フリースタイル65kg級	中村勝雄
42	1981年(昭和56年)	第34回全国高等学校総合体育大会	ボクシングヘビー級	浜端正二
43	1981年(昭和56年)	第24回全国高等学校選抜大会	レスリングフリースタイル52kg級	角地山豊
44	1981年(昭和56年)	第34回全国高等学校総合体育大会	レスリングフリースタイル52kg級	角地山豊
45	1981年(昭和56年)	第36回国民体育大会	レスリング フリースタイル52kg級	角地山豊

全国大会優勝者

個人一覧

NO.	開催年	大会名	競技・種目等	氏名
46	1981年(昭和56年)	第34回全国高等学校総合体育大会	レスリングフリースタイル60kg級	赤石光生
47	1981年(昭和56年)	第36回国民体育大会	レスリングフリースタイル60kg級	赤石光生
48	1982年(昭和57年)	第25回全国高等学校選抜大会	レスリングフリースタイル65kg級	赤石光生
49	1982年(昭和57年)	第35回全国高等学校総合体育大会	レスリングフリースタイル65kg級	赤石光生
50	1982年(昭和57年)	第37回国民体育大会	レスリングフリースタイル65kg級	赤石光生
51	1982年(昭和57年)	第25回全国高等学校選抜大会	レスリングフリースタイル52kg級	下沢明夫
52	1982年(昭和57年)	第35回全国高等学校総合体育大会	レスリングフリースタイル52kg級	下沢明夫
53	1982年(昭和57年)	第37回国民体育大会	レスリングフリースタイル52kg級	下沢明夫
54	1982年(昭和57年)	第25回全国高等学校選抜大会	レスリングフリースタイル60kg級	斉藤新治
55	1982年(昭和57年)	第35回全国高等学校総合体育大会	レスリングフリースタイル60kg級	斉藤新治
56	1982年(昭和57年)	第37回国民体育大会	レスリングフリースタイル60kg級	斉藤新治
57	1982年(昭和57年)	第25回全国高等学校選抜大会	レスリングフリースタイル70kg級	坂野下喜三
58	1982年(昭和57年)	第35回全国高等学校総合体育大会	レスリングフリースタイル70kg級	坂野下喜三
59	1982年(昭和57年)	第37回国民体育大会	レスリングフリースタイル70kg級	坂野下喜三
60	1982年(昭和57年)	第37回国民体育大会	レスリンググレコローマンスタイル75kg級	奈良岡豊
61	1982年(昭和57年)	第37回国民体育大会	レスリンググレコローマンスタイル87kg級	呑香龍二
62	1983年(昭和58年)	第36回全国高等学校総合体育大会	レスリングフリースタイル56kg級	清藤直博
63	1983年(昭和58年)	第36回全国高等学校総合体育大会	レスリングフリースタイル75kg級	奈良岡豊
64	1983年(昭和58年)	第36回全国高等学校総合体育大会	レスリングフリースタイル70kg級	尾形勝志
65	1983年(昭和58年)	第38回国民体育大会	レスリングフリースタイル70kg級	尾形勝志
66	1983年(昭和58年)	第36回全国高等学校総合体育大会	レスリングフリースタイル75kg以上級	奈良英則
67	1983年(昭和58年)	第38回国民体育大会	レスリングフリースタイル87kg級	奈良英則
68	1984年(昭和59年)	第27回全国高等学校選抜大会	レスリングフリースタイル48kg級	笹山秀雄
69	1984年(昭和59年)	第37回全国高等学校総合体育大会	レスリングフリースタイル48kg級	笹山秀雄
70	1984年(昭和59年)	第39回国民体育大会	レスリングフリースタイル48kg級	笹山秀雄
71	1985年(昭和60年)	第28回全国高等学校選抜大会	レスリングフリースタイル48kg級	笹山秀雄
72	1985年(昭和60年)	第38回全国高等学校総合体育大会	レスリングフリースタイル48kg級	笹山秀雄
73	1985年(昭和60年)	第40回国民体育大会	レスリングフリースタイル48kg級	笹山秀雄
74	1984年(昭和59年)	第27回全国高等学校選抜大会	レスリングフリースタイル56kg級	木村義治
75	1984年(昭和59年)	第27回全国高等学校選抜大会	レスリングフリースタイル65kg級	倉館健
76	1984年(昭和59年)	第37回全国高等学校総合体育大会	レスリングフリースタイル65kg級	倉館健
77	1984年(昭和59年)	第27回全国高等学校選抜大会	レスリングフリースタイル70kg級	関川清人
78	1984年(昭和59年)	第37回全国高等学校総合体育大会	レスリングフリースタイル70kg級	関川清人
79	1984年(昭和59年)	第39回国民体育大会	レスリングフリースタイル70kg級	関川清人
80	1984年(昭和59年)	第27回全国高等学校選抜大会	レスリングフリースタイル75kg級	浅沼俊幸
81	1984年(昭和59年)	第37回全国高等学校総合体育大会	レスリングフリースタイル75kg級	浅沼俊幸
82	1984年(昭和59年)	第39回国民体育大会	レスリングフリースタイル75kg級	浅沼俊幸
83	1984年(昭和59年)	第37回全国高等学校総合体育大会	レスリングフリースタイル52kg級	金浜良
84	1984年(昭和59年)	第39回国民体育大会	レスリングフリースタイル52kg級	金浜良
85	1984年(昭和59年)	第39回国民体育大会	レスリンググレコローマンスタイル87kg級	久米田雅勝
86	1985年(昭和60年)	第38回全国高等学校総合体育大会	レスリングフリースタイル75kg以上級	久米田雅勝
87	1985年(昭和60年)	第28回全国高等学校選抜大会	レスリングフリースタイル52kg級	花田秀実
88	1985年(昭和60年)	第38回全国高等学校総合体育大会	レスリングフリースタイル52kg級	花田秀実
89	1985年(昭和60年)	第40回国民体育大会	レスリングフリースタイル52kg級	花田秀実
90	1985年(昭和60年)	第28回全国高等学校選抜大会	レスリングフリースタイル60kg級	下沢和也

全国大会優勝者

個人一覽

NO.	開催年	大会名	競技・種目等	氏名
91	1985年(昭和60年)	第38回全国高等学校総合体育大会	レスリングフリースタイル60kg級	下沢和也
92	1985年(昭和60年)	第40回国民体育大会	レスリングフリースタイル60kg級	下沢和也
93	1985年(昭和60年)	第28回全国高等学校選抜大会	レスリングフリースタイル65kg級	山口公大
94	1985年(昭和60年)	第38回全国高等学校総合体育大会	レスリングフリースタイル56kg級	兜森衛
95	1985年(昭和60年)	第40回国民体育大会	レスリングフリースタイル56kg級	兜森衛
96	1985年(昭和60年)	第38回全国高等学校総合体育大会	レスリングフリースタイル70kg級	小坂明
97	1985年(昭和60年)	第40回国民体育大会	レスリングフリースタイル70kg級	小坂明
98	1985年(昭和60年)	第40回国民体育大会	レスリンググレコローマンスタイル87kg以上級	神子沢健一
99	1985年(昭和60年)	日本空手道協会全国大会	空手道組手	迫祐子
100	1986年(昭和61年)	第29回全国高等学校選抜大会	レスリングフリースタイル56kg級	花田秀実
101	1986年(昭和61年)	第39回全国高等学校総合体育大会	レスリングフリースタイル56kg級	花田秀実
102	1986年(昭和61年)	第41回国民体育大会	レスリングフリースタイル56kg級	花田秀実
103	1986年(昭和61年)	第41回国民体育大会	レスリンググレコローマンスタイル87kg以上級	神子沢健一
104	1986年(昭和61年)	第41回国民体育大会	レスリングフリースタイル70kg級	石沢常光
105	1986年(昭和61年)	第29回全国高等学校選抜大会	レスリングフリースタイル75kg級	津内口隆
106	1986年(昭和61年)	第41回国民体育大会	レスリングフリースタイル75kg級	津内口隆
107	1988年(昭和63年)	第41回全国高等学校総合体育大会	スピードスケート1,500メートル	小笠原広文
108	1990年(平成2年)	第45回国民体育	スピードスケート1,000メートル	村崎匡裕
109	1995年(平成7年)	第50回国民体育大会	スピードスケート3,000メートル	成田亜希
110	1995年(平成7年)	第50回国民体育大会	レスリングフリースタイル46kg級	松橋弘幸
111	1996年(平成8年)	第39回全国高等学校選抜大会	レスリングフリースタイル74kg級	浜中和宏
112	1997年(平成9年)	第52回国民体育大会	スピードスケート1,000メートル	工藤範秋
113	2003年(平成15年)	第46回全国高等学校選抜大会	レスリングフリースタイル76kg級	工藤豪己
114	2003年(平成15年)	第58回国民体育大会	レスリングフリースタイル76kg級	工藤豪己
115	2004年(平成16年)	第47回全国高等学校選抜大会	レスリングフリースタイル120kg級	荒木田進謙
116	2004年(平成16年)	第57回全国高等学校総合体育大会	レスリングフリースタイル120kg級	荒木田進謙
117	2004年(平成16年)	第59回国民体育大会	レスリングフリースタイル120kg級	荒木田進謙
118	2005年(平成17年)	第48回全国高等学校選抜大会	レスリングフリースタイル120kg級	荒木田進謙
119	2005年(平成17年)	第58回全国高等学校総合体育大会	レスリングフリースタイル120kg級	荒木田進謙
120	2005年(平成17年)	第60回国民体育大会	レスリングフリースタイル120kg級	荒木田進謙
121	2005年(平成17年)	第48回全国高等学校選抜大会	レスリング フリースタイル55kg級	小田裕之
122	2005年(平成17年)	第58回全国高等学校総合体育大会	レスリングフリースタイル55kg級	小田裕之
123	2006年(平成18年)	第61回国民体育大会	レスリング フリースタイル60kg級	小田裕之
124	2007年(平成19年)	第62回国民体育大会	レスリング フリースタイル50kg級	山内拓真



小林八戸市長より協賛金を受領する安井協賛会長



当時吹奏楽部の高橋副会長は、レスリング部の海外遠征や国体優勝など日常的で、その都度頻繁に三日町のパレードに参加した。



硬式野球部甲子園大会全戦績

開催年	大会名	回線	対戦高校	代表県	スコア	勝敗	備考(代表地区)
平成9年	第69回選抜高等学校野球大会	1回戦	県立岡山南	岡山	5-3	●	中国
	第79回全国高等学校野球選手権大会	1回戦	県立佐賀商業	佐賀	10-9	●	
平成10年	第70回選抜高等学校野球大会	2回戦	県立豊田西	愛知	3-2	●	東海
平成12年	第82回全国高等学校野球選手権大会	2回戦	県立丹原	愛媛	8-10	○	
		3回戦	九州学院	熊本	3-4	○	
		準々決勝	樟南	鹿児島	1-2	○	
		準決勝	智弁学園和歌山	和歌山	7-5	●	
平成13年	第83回全国高等学校野球選手権大会	2回戦	初芝橋本	和歌山	2-9	○	
		3回戦	神崎	佐賀	2-3	○	
		準々決勝	近江	滋賀	8-6	●	
平成15年	第85回全国高等学校野球選手権大会	1回戦	市立心由館	熊本	3-6	○	
		2回戦	木更津総合	千葉	1-3	○	
		3回戦	県立倉敷工業	岡山	0-2	○	
		準々決勝	東北	宮城	2-1	●	
平成18年	第78回選抜高等学校野球大会	1回戦	関西	岡山	6-4	●	中国
平成21年	第81回選抜高等学校野球大会	1回戦	県立今治西	愛媛	2-1	●	四国
平成23年	第83回選抜高等学校野球大会	1回戦	水城	茨城	0-10	○	関東
		2回戦	智弁学園和歌山	和歌山	3-2	●	近畿
	第93回全国高等学校野球選手権大会	2回戦	専修大学玉名	熊本	1-16	○	
		3回戦	県立徳島商業	徳島	5-6	○	
		準々決勝	東洋大学付属姫路	兵庫	1-2	○	
		準決勝	作新学院	栃木	0-5	○	
		決勝	日本大学第三	西東京	11-0	●	
平成24年	第84回選抜高等学校野球大会	2回戦	北陵	北海道	0-3	○	北海道
		3回戦	近江	滋賀	1-13	○	近畿
		準々決勝	愛知工業大学名電	愛知	3-5	○	東海
		準決勝	関東第一	東京	1-6	○	東京
		決勝	大阪桐蔭	大阪	7-3	●	近畿
	第94回全国高等学校野球選手権大会	2回戦	游学館	石川	0-4	○	
		3回戦	神村学園	鹿児島	4-9	○	
		準々決勝	桐光学園	神奈川	0-3	○	
		準決勝	東海大学付属甲府	山梨	3-9	○	
		決勝	大阪桐蔭	大阪	3-0	●	
平成26年	第86回選抜高等学校野球大会	1回戦	横浜	神奈川	5-9	○	関東
		2回戦	熊谷大学付属平安	京都	8-2	●	近畿
	第96回全国高等学校野球選手権大会	2回戦	釧路市立武周館	北北海道	2-4	○	
		3回戦	星陵	石川	1-5	○	
		準々決勝	敦賀気比	福井	7-2	●	
平成27年	第87回選抜高等学校野球大会	1回戦	九州学院	熊本	2-9	○	九州
		2回戦	大阪桐蔭	大阪	4-1	●	近畿
平成28年	第88回選抜高等学校野球大会	1回戦		島根	2-6	○	中国
		2回戦	熊谷大学付属平安	京都	2-0	●	近畿
	第98回全国高等学校野球選手権大会	2回戦	市立尼崎	兵庫	4-5	○	
		3回戦	東邦	愛知	10-9	●	
平成30年	第100回全国高等学校野球選手権	1回戦	県立明石市	西兵庫	8-9	○	
		2回戦	熊谷大学付属平安	京都	14-1	●	
平成31年	第91回選抜高等学校野球大会	1回戦	高陵	広島	2-0	●	
～令和元年	第101回全国高等学校野球選手権大会	1回戦	譽	愛知	0-9	○	
		2回戦	智弁学院	奈良	8-10	○	
		3回目	海星	長崎	6-7		
		準々決勝	市立明石商業	西兵庫	7-6	●	
令和4年	第104回全国高等学校野球選手権大会	1回戦	創志学院	岡山	7-3	○	
		2回戦	愛知工業大学名電	愛知	6-5	●	

第104回全国高校野球選手権

2022年8月9日デーリー東北新聞社掲



光星 初戦突破

夏の甲子園 県勢50勝目

【仙台9日電】仙台育英学園高等学校（光星）は、夏の甲子園大会初戦で、東北福祉大学付属高校（東福）と対戦し、延長12回、5対0で勝利した。県勢は50勝目を挙げた。

光星は、1回、2回、3回、4回、5回、6回、7回、8回、9回、10回、11回、12回と延長戦となった。投手陣は、1回、2回、3回、4回、5回、6回、7回、8回、9回、10回、11回、12回と延長戦となった。

24日（土）に開幕する。仙台育英学園高等学校（光星）は、夏の甲子園大会初戦で、東北福祉大学付属高校（東福）と対戦し、延長12回、5対0で勝利した。県勢は50勝目を挙げた。

2022年8月13日デーリー東北新聞社掲載

光星野球部OB 洗平竜也さん(話)メッセージ

甲子園息子たちに感謝

特別な舞台、胸に迫る感情

選手の粘り強さ強い証拠

「甲子園という特別な舞台で、息子たちが活躍している姿を見て、胸に迫る感情があります。彼らの粘り強さ、強い証拠です。彼らは、甲子園という特別な舞台で、息子たちが活躍している姿を見て、胸に迫る感情があります。彼らの粘り強さ、強い証拠です。」

洗平竜也さん（光星野球部OB）は、甲子園という特別な舞台で、息子たちが活躍している姿を見て、胸に迫る感情があります。彼らの粘り強さ、強い証拠です。彼らは、甲子園という特別な舞台で、息子たちが活躍している姿を見て、胸に迫る感情があります。彼らの粘り強さ、強い証拠です。

聖地で躍動「息子は誇り」

光星 初戦突破

織笠選手(六戸)、野呂選手(出羽)の父

成長した姿に万感の思い

「息子は誇り」

織笠選手(六戸)、野呂選手(出羽)の父

成長した姿に万感の思い

光星は、初戦突破を遂げ、甲子園大会で活躍している。織笠選手(六戸)、野呂選手(出羽)の父は、息子たちの活躍を見て、胸に迫る感情を感じている。

デーリー東北

夢を見た東京五輪の開幕が朝一列と華々中、野球日本代表の教本勇人（巨人、斎藤隆）は目の光を輝かせる姿を見せている。「競技復活して、まずは東京五輪もある。いろいろ思うところはある。自分自身でやる機会があるかもしれないと思う」と意気揚々と語りだした。

競技復活で決意 金獲得へ「力に」

野球代表 坂本（光星）



東京五輪の開幕が朝一列と華々中、野球日本代表の教本勇人（巨人、斎藤隆）は目の光を輝かせる姿を見せている。「競技復活して、まずは東京五輪もある。いろいろ思うところはある。自分自身でやる機会があるかもしれないと思う」と意気揚々と語りだした。

「野球の復活は、僕ら選手にとっても、ファンにとっても、大きな喜びです。まずは東京五輪で活躍したいです。金メダルも目指します」と意気揚々と語りだした。

リ ー 東 北 2021年(令和3年)8月8日(日) 掲載日

原点は努力の地・八戸

坂本 ここ一番で力を発揮

侍J象徴するプレーぶり

母校関係者ら祝福

東京五輪の開幕が朝一列と華々中、野球日本代表の教本勇人（巨人、斎藤隆）は目の光を輝かせる姿を見せている。「競技復活して、まずは東京五輪もある。いろいろ思うところはある。自分自身でやる機会があるかもしれないと思う」と意気揚々と語りだした。

侍Jの象徴するプレーぶりを、母校関係者ら祝福した。侍Jの象徴するプレーぶりを、母校関係者ら祝福した。

侍Jの象徴するプレーぶりを、母校関係者ら祝福した。侍Jの象徴するプレーぶりを、母校関係者ら祝福した。

青森ゆかり レスリング女子首脳

笹山監督(剛上 出身)



東京五輪のレスリング女子コーチ陣が同日、オンライン取材に応じた。青森県関係では、物産博覧会(55)＝剛上出身、光星勇人が女子監督、志保直人(56)＝十和田市出身、真紀子(57)が女子コーチとして代表選手に名前を連ねており、笹山監督は「女子全階級で金メダルが目標」と意気込んでいる。(後藤千穂)

「全階級で金を」

金浜コーチ(十和田 出身)

「確実に勝つ試合に」



「確実に勝つ試合に」金浜コーチは、東京五輪のレスリング女子コーチ陣が同日、オンライン取材に応じた。青森県関係では、物産博覧会(55)＝剛上出身、光星勇人が女子監督、志保直人(56)＝十和田市出身、真紀子(57)が女子コーチとして代表選手に名前を連ねており、笹山監督は「女子全階級で金メダルが目標」と意気込んでいる。(後藤千穂)

「無事に開催、感謝」

レスリング女子監督・笹山さん(剛上)

4階級 重量級メダル逃し悔しさも

東京五輪の開幕が朝一列と華々中、野球日本代表の教本勇人（巨人、斎藤隆）は目の光を輝かせる姿を見せている。「競技復活して、まずは東京五輪もある。いろいろ思うところはある。自分自身でやる機会があるかもしれないと思う」と意気揚々と語りだした。

レスリング女子監督の笹山剛上監督は、東京五輪の開幕式で「無事に開催、感謝」と述べた。4階級重量級メダル逃し悔しさも。

懐かしの校舎



懐かしの校舎



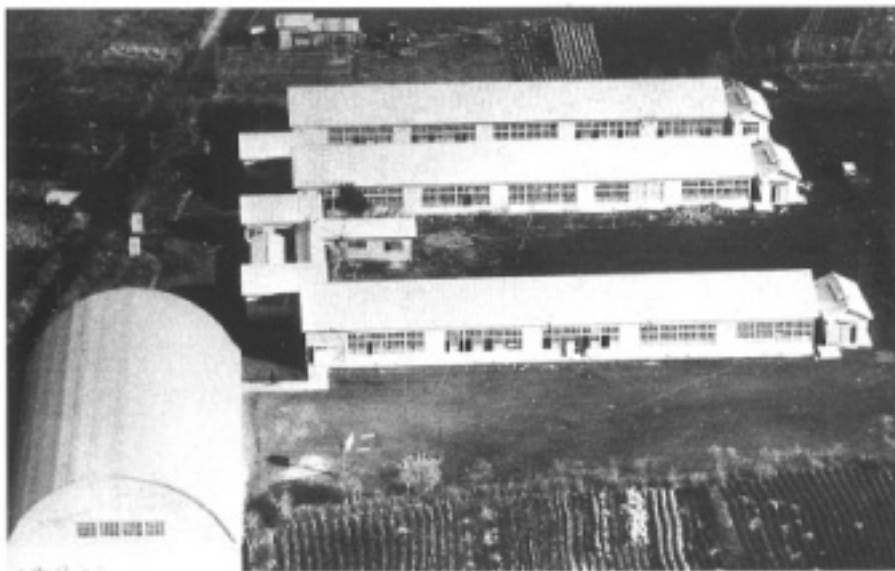
校舎は、最も古いのは昭和31年（1956年）に入学式が挙行された1日、八戸市立第一高等学校の仮校舎。そして、翌年湊町に完成した3棟の木造平屋建て校舎。39年までに増築された「面」の字型校舎。校庭は土埃が舞いガラスの窓から土埃が入ってくる。43年には、鉄筋校舎の1号館が完成。50年には鉄筋四階建ての校舎を増築。平成20年（2008年）現在の新校舎完成。

創立当時の写真

創立当時の職員



創立当時の校舎





卒業の思い出

普段の学校生活

今



整然と並ぶスクールバス（平成18年）

昔



雪の農道を登校（昭和35年）



普通科進学コース特進クラスの授業（平成18年）



普通科特別進学クラス（Lクラス）の授業（昭和45年頃）



工業技術科機電制御コースの授業（平成18年）



機電科の授業（昭和42年頃）



- ・ 1956年（昭和31年）八戸市内初の男子高校として開校
- ・ 1958年（昭和33年）学校法人光星学院高等学校となる
- ・ 1962年（昭和37年）中村キヤ校長先生就任
- ・ 1966年（昭和41年）自動車科増設
- ・ 1971年（昭和46年）八戸短期大学の開設
- ・ 1973年（昭和48年）野辺地工業高等学校の開設
- ・ 1981年（昭和56年）八戸大学の開学
- ・ 1987年（昭和62年）光星会館完成
- ・ 2013年（平成25年）八戸学院光星高等学校に校名変更



紺色に変わった女子の制服
(平成16年から)



ブレザーとグレーのシングルの制服
(昭和61年)



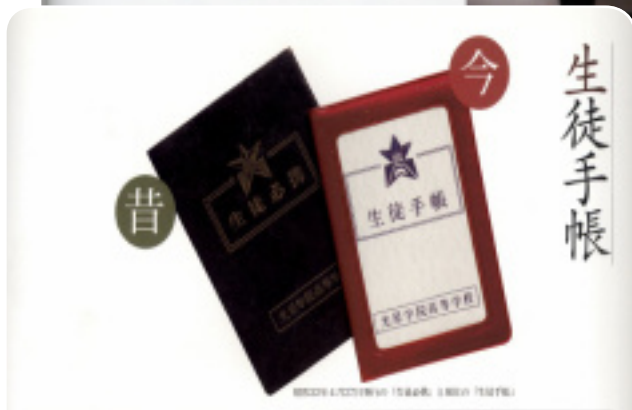
紺襟の学生服とグレーのダブルの制服 (昭和40年代)



現在の女子の夏服



制服は男子生徒
詰襟学生服 (学帽有)
昭和39年(1964年)に
男女共学となった時女子生徒
は、グレーでダブルの制服。
昭和61年(1986年)に
は男子生徒が現在のブレザー
に、女子生徒は色はそのまま
で、シングルの制服に変わった。
平成16年(2004年)に
は女子生徒の制服のみ紺色に
ネクタイ・色も変わった。



生徒手帳



学校案内



生徒会誌



学校行事

今

昔



第48回卒業式 (平成18年3月)

第1回卒業式 (昭和34年3月)



チアリーディング部 (平成17年)



赤いジャージー姿の応援団 (平成17年)



ガクラン姿の応援団 (昭和40年代)



芸能祭

今



クリスマスの集い (平成17年)

昔



クリスマスの集い (昭和40年代)



光星祭のイベントでブレイクダンスを踊る (平成17年)



文化祭のイベントで流行したエレキギター (昭和40年代)



最初の海外修学旅行 (昭和62年/韓国)



第2回目の修学旅行 (昭和34年/皇居前で)

昭和40年前後、ベンチャーズからビートルズ旋風のあたりは、グループサウンズが流行しエレキギターに夢中!!今は、ラップにブレイクダンス
第11回目の修学旅行は昭和33年(1958年)からで、関西方面。
海外へは、昭和62年の韓国が最初



各年度の卒業アルバム



大運動会

懐かしく良き思い出

- ・第1回目開催昭和32年（1957年）高く組みあげられた櫓がシンボルです
- ・櫓造りに杉の葉取りに山へ行きます。授業より櫓造りに命を賭ける。
- ・運動会は、赤・白・黄・青と一年生から三年生まで同じ組で決戦！
- ・応援合戦は、盛大で上級生は、怖かった！！ 仮装行列もあり面白かったよ！



歴代同窓会会長

初代	畑 中	徳 壽	(昭和33年度卒)	普通科第1期生)
第2代	田名部	種 雄	(昭和36年度卒)	普通科第3期生)
第3代	藤原	一 紘	(昭和33年度卒)	普通科第1期生)
第4代	大 阪	康 秀	(昭和35年度卒)	普通科第3期生)
第5代	豊 島	典 興	(昭和34年度卒)	普通科第2期生)
第6代	馬 渡	麟太郎	(昭和36年度卒)	普通科第4期生)
第7代	安 井	基 悦	(昭和47年度卒)	普通科第15期生)

役 員 名

会 長	安井 基悦	(昭和47年度卒)	普通科	第15期生	レスリング部)
副会長	階上 友子	(昭和48年度卒)	普通科	第16期生	演劇部)
副会長	高橋 隆一	(昭和48年度卒)	普通科	第16期生	吹奏楽部)
副会長	中野渡 泰英	(昭和49年度卒)	普通科	第17期生	放送部)
副会長	黒坂 広文	(平成2年度卒)	自動車科	第23期生)
副会長	新山 聖将	(平成9年度卒)	普通科	第40期生	空手部)
監査	立花 崇	(昭和39年度卒)	商業科	第2期生	バスケット部)
監査	前田 俊二	(昭和42年度卒)	商業科	第5期生	アイスホッケー部)
会計	市川 国堤	(昭和39年度卒)	商業科	第2期生	空手部)
書記	下館 啓永	(昭和48年度卒)	普通科	第16期生	史学部)
書記	小笠原 たず子	(昭和53年度卒)	保育科	第10期生	吹奏楽部)
幹事長	笹垣 昇	(昭和34年度卒)	普通科	第2期生)	



役員からのメッセージ



副会長 階上 友子
普通科16回生 昭和48年度卒

2021年3月31日掲載 (デーリー東北新聞社)

この度の第60周年記念総会開催、記念誌作成をお祝い申し上げます。

私は昭和46年度普通科に入学し、馬渡麟太郎学級でした。学校生活での思い出は、一年生のクラスは木造校舎で土埃舞う教室、二年生は体育館の中を通り抜けてプレハブの様な教室、三年生の時は、本館の鉄筋コンクリート三階建ての教室でした。また、生徒会の副会長も経験させていただきました。

年間行事の運動会は、男子生徒が杉の葉を山へ出掛けて集め、軍の櫓造りにベニヤ板に描く絵や応援合戦にと一致団結する光景は圧巻でした。修学旅行は、当時国鉄の春闘で予定の日程がずれたことにより、運動部の春季大会が重なり参加できなくなり、全員行けなかったのが大変残念でした。修学旅行先の原爆ドームと記念館の拝観では、戦争と核の悲惨さに衝撃を受けました。

私の同窓会役員のかっかけは、恩師の馬渡先生から30歳の時にお誘いがあり、同窓会幹事として参加いたしました。以来36年間、現在は副会長として安井会長のご指導の下で活動させていただいておりますが、まだまだ、力不足を感じます。今後共、同窓生の親睦を図ることと母校の発展のため、そして現役生徒の支援のために努力して参りたいと思います。

終わりに、同窓会が、益々活動的な組織で運営され、そしてご隆盛されることをご祈念申し上げます



副会長 高橋 隆一 普通科16回生 昭和48年度卒



人生 極める

1曲の踊り3年間磨く

MINNET

階上 友子 さん (60)

八戸市市川町

「人生の楽しみは踊りにある」といふ人はいませんが、階上さんはその言葉を信じて踊りを愛する人です。踊りを通じて、心と体を鍛え、人との絆を深め、人生を豊かにしたいという思いで、踊りに没頭しています。踊りを通じて、心と体を鍛え、人との絆を深め、人生を豊かにしたいという思いで、踊りに没頭しています。

小さい頃からカーデザイナーになりたいと自動車の専門家用の雑誌を読みふけていました。周りの男子生徒は大工、女子生徒はお手伝いさんになりたいという下田村出身です。十勝沖地震は中学1年生の田植え休みの中間出校日に起きました。こんな農村なのでカーデザイナーといっても誰も理解できないので、私はタクシーの運転手になりたいとごまかしていました。ということで光星高校には自動車科を受験しましたが、近所の光星校先輩から普通科に転科して大学を目指すようアドバイスを貰い普通科に入学しました。部活は中学から吹奏楽部でメロホーン(フレンチホルンの簡易型)を担当していました。中学時代に自分で楽典を読み、部活の先生に楽典の事を根掘り葉掘り聞いていたオタクになっていましたので、高校では吹奏楽部に入部。1年生の時は学生指揮でBクラス(30人まで)でコンクール5位。2年生では3位。3年生では田端敏則先生が赴任して顧問になり、コンクールで県大会1位、東北大会に出場しました。3年生時でも未だ楽器がメロフォンだったのです。6月頃によくフレンチホルン1台購入して貰い、私が個人で1台購入、小中野中学から2台借りてきてようやく4台揃ってコンクールに出場できました。当時の吹奏楽部はレスリング部がいろんな大会で優勝したり海外遠征等の度に三日町をパレードしていました。体育祭にはパレードの練習だということで一ヶ月前から白銀の岸壁に行ってコンクールの練習をしていました。夏の合宿は鉄筋コンクリート造りの新館3階で寝泊まりし、パレードはバトン部と一緒に合宿も一緒でした。冬の定期演奏会に向けての合宿はすきま風で寒い木造校舎に寝泊まり、食事は味噌汁があるだけで、中の具はその辺からもいできた(取ってきた)雑草だったようです。そんなこんなでホルンが大好きになり、本当は音楽大学に進学したかったのですが田端先生に一瞬で否定されました。全くその通りで、音楽大学受験の準備はなにもしていませんでした。大学では吹奏楽部に入部、一般の吹奏楽団では団長も経験しました。指揮者だった元NHK交響楽団の故坂逸郎氏と出会い、先生の自宅に入り浸っており門前の小僧のような状態で音楽の知識を吸収しました。一般の交響楽団にも入団し、そこで音大生やプロの先生方との出会いがあり指導して貰ったりと、当時のことがあるので今現在も音楽界との繋がりをもっています。八戸に帰ってからは八戸市民フィルでコンチェルトを2回演奏しています。私が主催している八戸チェンバーアンサンブルでは自主公演のほか、保育施設や地域

団体などからの依頼で演奏に出かけ、毎年暮れになると七戸の「喜びの歌をうたう会」からお招きいただき第九と一緒に演奏しています。講師としていろんな学校に指導に行っておりますが、昨年からは小学校の吹奏楽部へ定期的に指導に行っております。10年ほど前には東京芸術大学ホルン科に一人合格させ、プロで活躍しており、現在は音楽大学受験生二人を指導しています。このように活動出来ているのは、光星高校だったから大学へ進学でき、東京での活動が出来たことでいろんな繋を作れましたことが今現在に役立っています。

同窓会との関わりは、同時期でしたが恩師担任の馬渡麟太郎先生と吹奏楽部顧問田端敏則先生お二人に参加するよう言われたのがきっかけで、今現在に至っております。

昭和48年10月13日 弘前市民会館
全日本吹奏楽コンクール東北大会



昭和45年7月
運動会パレードのための練習
白銀埠頭



1997年4月 八戸市公会堂
八戸市民フィルにて第29回定期演奏会でソロ演奏



2016年12月
七戸手を繋ごう親の会主催
喜びの歌をうたう会



昭和45年7月
運動会での開会式パレード





副会長 中野渡 泰英
普通科17回生 昭和49年度卒

第60回記念総会に寄せて

八戸学院光星高等学校同窓会第60回記念総会、誠におめでとうございます。人生に例えれば還暦を迎えた事になりますが、設立当初より今日まで本会を支えて下さいました諸先輩方には感謝の念で一杯でございます。

私は、平成2年に同窓会十和田支部設立以来、初代十和田支部長竹中偉和夫氏の補佐役として副支部長を拝命し、2代目十和田支部長を経て現在は同窓会副会長となり、微力ながら幹事、役員としてお手伝いさせて頂いております。私が参加してから約30年が経ちましたが、今日まで後輩たちの活躍には目を見張るものが多々ありました。先ず、レスリング部は昭和の時代から長年に渡り、全国高総体や国体での輝かしい功績を残し数多くのオリンピック選手を輩出しております。

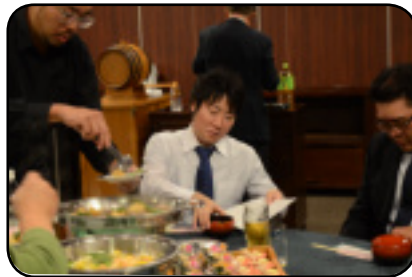
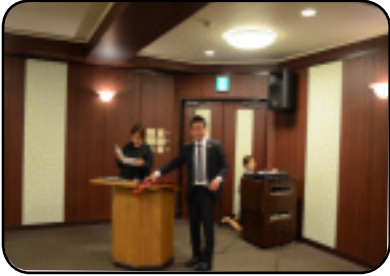
平成に入り硬式野球部の活躍は皆様の記憶にも新しい事と思います。平成9年の第69回選抜大会での甲子園初出場を皮切りに今日まで幾度となく出場し母校の知名度を全国レベルと押し上げてくれました。特に平成23年、夏の大会での準優勝をきっかけに翌年の選抜大会、そして夏の大会での準優勝と甲子園、夏、春、夏と3大会連続での準優勝という偉業を成し遂げた事は皆様の記憶に強烈な印象として心の奥深く刻まれた事と思います。

また、サッカー部やバスケット部の全国大会や新春恒例の箱根駅伝大会での本校出身ランナーの力走等々数え上げれば限りがありません。頼もしい後輩達の一挙一動に感動を覚えたものであります。今後も後輩達の良きアドバイザーとして、より一層の文武両道での活躍に期待しつつ、少しでも手助けになればとの思いと本校同窓会益々の発展と十和田支部を絶やさぬよう皆様からの御指導と御協力を頂きながら盛会に導きますよう尽力して参りたいと思いますので、何卒宜しくお願ひ申し上げます。





副会長 新山 聖将
普通科40回生 平成9年度卒





副会長 黒坂 広文
自動車科 23回生 平成2年度卒



同窓会記念誌 執筆依頼をうけて在校時の思い出を思い起こすため、約30数年前の卒業アルバムをクローゼットの奥底から引っ張りだし開いて見ました。

今では考えられない個人情報満載のアルバムで、当時のことが昨日のことに思い出されます。光星に入学したきっかけは、何となく自動車が好きで自動車科がある。さらに専攻科もあり自動車の知識がたくさん学べる。そういう思いで何となく入学しました。

入学した時の印象は先輩方がとても大きくある意味、怖く感じました。三年生が当時、制服が学ランで、2年生、1年生がブレザーというのもあったのかも。自動車の実習場もとても大きかったのですが暗くて寒かったのを思い出します。生徒会館も出来てまもなくだったような感じでした。生徒会館では昼食はもちろんですが、むつ食品のチキンカツをいつも購入してました。今でも私のソウルフードです。

私が2年生の時に、創立35周年を記念してのアメリカホームステイを経験させていただきました。野西と2校合わせて32名の参加で、約2週間の短いホームステイでしたが、現地の学校に通い英語の体験学習と、ホストファミリーとの日常生活や異文化交流などを肌で感じる事ができました。そして帰国して間もなく韓国への修学旅行でした。短期間でのアメリカサンフランシスコと韓国ソウルを同級生と旅行できたことが一番の思い出です。

何となく入学した光星高校ですが様々な経験をさせていただき、今ではその経験が仕事となり生かされており、私の長男が光星自動車科、専攻科に入学したことをきっかけに、数十年ぶりに恩師と再会し、PTA役員を仰せつかり何とか大役を務めあげました。いまでは息子も卒業して自動車会社に就職しております。残念なことに時代の流れでしょうか、自動車科はもとより工業技術系の科がなくなり、専攻科までなくなりました。本当に残念に思います。これからも光星とのご縁を大切にしていきたいと思っております。



書記 小笠原 たず子
保育科10回生 昭和53年度卒

幼い頃からの夢が保育士になる事で、光星学院保育科（当時）に入学しました。在校時は、ブラスバンド部に入学し先輩方に沢山ご指導いただきました。

当時は夏休み等長期休みは、それぞれ布団を持ち込み学校に宿泊して、翌朝眠い目を擦り、朝市に食料買い出しに出かけ、ご飯を作ったという思い出があります。又友にも恵まれ、恩師にも恵まれ三年生時には母の国家試験も体験してその様にして三年間を過ごし短大を卒業して保育士として働いていた際、恩師の中村美保子先生から同窓会の集まりに行ってくれないかとお電話をいただきました。大切な恩師のお誘いをお断りすることは出来ず、後日役員会に出ささせていただいたのが、同窓会活動のはじまりでございます。

当時は大坂康秀会長、他役員の方々に優しく向かい入れていただき同窓会運営の難しさ等も学びました。又これまでご苦労された事、先輩方大変であった思い等知りました。

この同窓会に参加していなければわからない事等、何って本当に頭が下がりました。途中私は、子育ての期間が2年間あり、休ませていただきましたが、役員の方々にはいつも優しく声をかけていただき感謝しております。

現在は、安井基悦会長、気配りがすばらしい方で、とても同窓会運営に関しましても学校への思い、そしてすばらしいお考えをお持ちの方です。又副会長の階上友子さんも入会する前からの先輩で会議に私も行きますので一緒に行きましょう等声をかけていただきこれまで続けてこられましたのも階上さんのおかげです。ありがとうございました。

この度の八戸学院光星高等学校同窓会記念誌に執筆させていただいている事にも感謝でいっぱいでございます。ありがとうございました。



監査 前田 俊二
商業科5回生 昭和42年度卒

今を生きる

日頃、同窓会役員、事務局の皆様には大変御世話になっております。「記念誌」発行おめでとうございます。私は、定かではありませんが、十年ぐらい前に監査を仰せつかり、右も左もわからないまま、先生方や先輩の方々の御指導をいただき今日に至っております。

さて、何かと暗いニュースが多い昨今、冬季オリンピック、パラリンピックが幕を閉じました。感動シーンがありましたね。スノボの女子決勝で史上初の超大技をかけた岩淵麗奈選手、転倒したためメダルには届かなかったが、前日の予選で、左手甲を骨折した中でのチャレンジだったことを明かし、各国の選手が駆け寄りハグを交わし、国境を越えた姿に感動と勇気を貰いました。人の何倍も努力し、晴れの舞台に立ったアスリートの皆さん、お疲れ様でした。

私は五十数年前本校に入学しました。学業も忘れて好きなアイスホッケーに打ち込んでいました。当時のリンクは長根の自然リンク北沼で、徒歩か自転車での移動でした。学校から階上岳へランニング、蕪島神社の階段ダッシュ、厳しくも礼儀と根性を叩きつけられました。おかげでインターハイ、国体、出場することができました。大学四年生、一部リーグに昇進し卒業できたことは、一生の財産です。今でも「元気か」のやり取りは続いています。実業団チームでは、国体二回優勝を果たし、仕事の傍らそんなチームに在籍できたことはとても幸せでした。年を重ね、オールドタイマー全国大会、大学卒業後それぞれ地元に戻った仲間達と再会し、ゲームの勝ち負けはともかく、夜の飲み席では昔話に花が咲き至福の時間でした。

時代は移り、大好きなアイスホッケーが、息子孫達に受け継がれていることが何より嬉しいことです。「孫達の活躍を生で観たい」この思いが叶うように、私自身元気で長生きできることを願いつつ、今を生きております。そして早くコロナが終息し、元の暮らしに戻ることを願ってやみません。



GK 高島 辰美、扇谷 文隆
 FW 根城 稔、清川 信義、工藤 宗男、中村 覚、三浦 裕、地代所 鉄治、佐々木 富吉、
 小野寺 邦夫、工藤 由勝、風穴 義信、坂上 正志、片沼 勝美、田附 治則、蟹沢 信幸
 DF 畑中 重男、藤島 稔、江刺家 清、前田 俊二

青森県アイスホッケー大会
 NHK杯
 高体連
 国体予選
 昭和40年4大会優勝

1976年冬季オリンピック
 オーストリア インスブルック大会 江刺家 清 出場



今から65年前〔昭和32年4月〕に光星学院高等学校に入学しました。開校して2年目の年でした。薄れつつある3年間の学校生活を回顧してみたいと思います。

4月9日の入学式に顔を合わせた生徒は2百数人で4クラス編成であったと思われます。その頃は汽車、バス、自転車通学の生徒が殆どで、私は東糠塚〔現在は長者1丁目〕に自宅がありましたので、1～2年生の時はバス通学、3年生になって天気の良い日は自転車通学をしました。

当時は戦後10年ちょっと経過したばかりで、一般サラリーマンの給料は1か月4千円程度であったと思われます。衣食住も十分に満足できる時代ではありませんでしたので、生活も豊かではなく、自家用車を持てる家はまれでした。

高校進学率は、約38パーセント台で、中学校を卒業すると、「金の卵」と称して、集団就職する者が多かった時代でした。

学び舎は、辺り一面畑で、その真ん中に木造平屋建3棟があるだけでした。通学路の途中にあるのは湊中学校だけで、道路は農道のように細く砂利が少し敷かれている道でした。ですから、雨が降ろうものなら、道は田植えができるほどの泥になり、そこを高足駄で歩くのが大変でした。また、春の強風時は、土埃で一寸先が見えなくなり、校舎も見当が付かないほどの土煙でした。こんな状況ですから、教室や廊下は土埃で、先生が授業で黒板に書いた文字が霞んで見えなくなり、また、給食時間に弁当を開くと、とたんに胡麻塩でもかけたようになって、とても授業や弁当を食べられる状態ではなく、午後は休校になることもしばしばありました。

こんな日の翌朝の掃除は大変なものでした。今みたいに掃除機があるわけでもないので、教室や廊下に溜まった土を取り去り、ほうきで履き、その後濡れ雑巾で拭きました。バケツの水がどろ水になり何度も何度も取れたものです。しかし、生徒も先生も一緒になって清掃に汗を流した記憶が昨日のように思い出されます。

当時の風物詩となっていたのが、通学路の脇や校舎の近くまで連なる干しイカのカーテンです。八戸は、イカ、サバ、イワシの水揚げ高は日本有数の漁港であるとして知られていました。学び舎や通学路で「干しイカのカーテン」を見て、とても感動したことを今も覚えています。大漁の日には、当時でも小・中学生の中には学校を休んで手伝いをする子もいたと聞いています。

このような環境でしたが、昨日のように鮮明に蘇ってくるのが、学校で素晴らしい先生方や仲間との出会いがあったことです。今でも即座に10数人の先生方の顔と名前が浮かんできます。

故中村キヤ先生からは、漢文と古典を教わりました。唯一女性の先生であったので、生徒はみんな静かにして目を輝かせて、先生の瞳と黒板を見詰めながら真剣に授業を受けたものです。漢文として教わった「少年老い易く学成り難し、一寸の光陰軽んずべからず〔朱子〕」、「過ちては則ち改むるに憚ること勿れ〔孔子〕」です。この言葉は、生涯の信念として実践していきたいと思っています。この言葉は現在の高校生諸君にも通用することだと思います。先生のソフトな語り方や眼光の鋭さ、板書の美しい文字などは忘れられません。

原山先生の国語、岩田先生の英語は、授業が始まっての10分間は毎回、漢字の書き取りテスト、英単語のテストがありました。毎日20問の宿題が出され、その中から10題がでるといことなので、家庭での勉強の習慣ができました。数学では、半崎先生の気迫と迫力のある筋道のたった説明で、難解であった三角形の求積〔ヘロンの公式〕を理解できた時の感動は忘れません。

黒板いっぱい板書して大きな声で説明し終わると、また板書するというスピード感溢れる先生として、社会科担当の富田先生、故中村先生、理科担当の故石丸先生が忘れられません。また、授業中に貴重な人生の在り方等について語って下さった故織戸先生、瀬戸先生も印象に強く残っている先生です。

当時の先生方は、大学を卒業したばかりの、若い先生が多かったような気がします。ですから授業には厳しさがあったのですが、放課後は兄貴のような存在で、生徒との触れ合いを大切にしてくれました。先生方と生徒のチームで、野球、ソフトボール、バスケットボール等の親善試合をして楽しんだものです。私は野球が大好きなので野球の試合に参加した記憶が蘇ってきます。また、日曜日や夏休みを利用して、先生方3人ぐらゐと生徒の希望する5人ほどが一緒になって、十和田湖、久慈溪流、階上岳登山などに行った記憶も鮮明に残っています。したがって当時の生徒たちは、先生方に対して全幅の信頼と尊敬の念を抱いていました。心の絆が強く結ばれていたような気がしています。

当時の運動会や応援歌の練習は、昼休みの時間に全校生徒が校庭に出て、皆心一つにして頑張ったものです。運動会につきものなのが陣地作りでほけで櫓を組み、むしろを張り、そこに杉の葉をさして作った5メートル四方もある立派なものでした。それは大変な作業で1週間位もかけて作ったものです。特に苦労したのが杉の葉を集めることでした。学校の周辺は畑一面でしたので、現在の東中学校があるあたりまでは畑であって、その付近から雑木林や杉林、松林等が町畑の方まで続いていたと思われます。私たち生徒は杉林まで歩いて杉の葉を集めることでした。それを手に持ったり、肩で担いだりしながら歩いて校庭に運ばなければならなかったのです。応援歌は、畑のような校庭で土埃の凄いとこで、声をからしての練習でした。当時は校歌や応援歌がなかったので、六大学の応援歌を光星校風にアレンジして歌ったものです。

入場行進、体操、競技、仮装行列等にも工夫をこらして、真剣に、そしてユーモアたっぷりの演出をした楽しい運動会であったと今でも懐かしく思っています。

高校3年の時に待望の講堂兼体育館が竣工され全校挙げて喜びに沸きました。この体育館で感動的な卒業式を終えたことなど我が母校3年間で走馬灯のようにかけめぐりました。

本当に光星学院高等学校と先生方に感謝しています。お蔭様で高校卒業と同時に大学に入学することができました。そして大学を卒業すると同時に公立学校の教諭として38年間にわたって務めることができました。退職した後、4月から、光星学院高等学校の附属しのめ幼稚園の園長として務めることになりました。4月1日、辞令交付を受けた後、幼稚園の園舎に入り、園内を一巡しました。そこで驚いたことが一つありました。それは我が学び舎であった一階平屋建ての3棟に似ているなど思ったのです。そこで、早速、今は亡き中村キヤ校長先生に聞いてみました。

「幼稚園に入園したい子どもが増えてきているので、高校を創設した時の校舎を現在の体育館の脇に3棟を全て移動させて幼稚園にしました」とのことでした。今から65年前に入学した校舎が園舎に生まれ変わっていたのです。

故中村キヤ校長先生からは、高校時代、大学時代、教員時代の45年間にわたってご指導、ご助言を賜ってきました。そして、平和14年から幼稚園でお世話になりました。高校と幼稚園は同じ敷地の中にあるので日々幼児教育について助言頂きました。先生から育てていただいたことは終生忘れることはありません。

これからも同窓会の一員として、八戸学院光星高等学校を支援していきたいと思っています。

終わりに「母校の荣誉照り榮えて、輝け光星、永久に永久に」と校歌に歌われているように我が母校の益々の繁栄を願っています。



各支部紹介

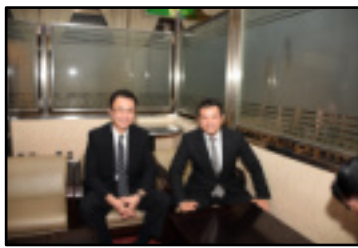
久慈支部

支部長
初代 清水 正明 (昭和35年 普通科第7期生)

三沢支部

支部長
初代 山本 正文 (昭和37年 普通科第5期生)
第2代 河村 和重 (昭和59年 普通科第27期生)

三沢支部	氏名
支部長	河村 和重
副支部長	山本 徳光
副支部長	安斎 浩二
支部顧問	山本 正文
支部顧問	佐々木 仁
監査 会 計	菅原 久美子 大久保 豪樹



十和田支部

支部長

初代 竹中 偉和夫 (昭和33年 普通科第1期生)
 第2代 中野渡 泰英 (昭和49年 普通科第17期生)
 第3代 若宮 勝喜 (昭和49年 建築科第5期生)

十和田支部	氏名
支部長	若宮 勝喜
副支部長	笹森 金太郎
副支部長	気田 博幸
会計	若宮 厚子



八戸学院光星高等学校同窓会 十和田支部 支部長 若宮 勝喜

八戸学院光星高等学校同窓会の皆様、十和田支部長の若宮です。関係各所の皆様にはいつもお世話になっております。今回60回総会開催記念広報誌発行に際し一言お願い致しますとの事で、僭越ながらお話をさせていただきます。

十和田支部は、支部設立時それなりの会員がおりました。諸事情で一度崩壊状態に至りましたが、諸先輩方、又同窓会会員、事務局員の方々の協力のもとに再開出来る様になり現在に至ります。現在の十和田支部会員は少人数ですので、新規会員の募集をしております。知り合いの方がおりましたらご紹介いただきますよう宜しくお願いいたします。

これからも同窓会を盛り上げて十和田支部創設時よりも会員の参加者を増やしていくように努力し、沢山の方々と親睦を図れるようにしたいと思います。

これからも十和田支部共々どうか宜しくお願い致します。

平成2年十和田支部 設立総会懇親会



中村キヤ校長を迎えて感激の十和田支部の面々



関東支部

支部長

初代	日影 利男	(昭和38年)	商業科第1期生)
第2代	海野 孝利	(昭和40年)	普通科第12期生)
第3代	菊池 孝志	(昭和38年)	普通科第10期生)
第4代	日影 利男	(昭和38年)	商業科第1期生)

支部長	日影 利男
副支部長	福嶋 舞人
副支部長	高木 依吹
副支部長	若林 憲生
終身顧問	菊池 孝志



和顔愛語 (わけんあいご) 関東支部同窓会

支部長 日影利男

このたび、八戸学院光星高等学校同窓会第60回記念総会の一環として記念誌が発行されますことを心よりお祝い申し上げますとともに、この記念事業を企画された安井会長はじめ関係者の皆様に対しまして、深く敬意を表します。

これまで同窓会活動の一端を担い、私が沢山の方々と交流出来た事は、同窓会長を初め運営に関わって戴きました総ての皆様方、そして、母校教職員のご指導によるものと深く感謝申し上げます。

関東支部同窓会は「和顔愛語」を旗印とし昭和48年6月発足時から49年間活動し、今を迎えております。これまでを振り返りますとその道程は必ずしも順調満帆ではありませんでした。発足当時から学校に支部の運営を担っていただき、本当にご迷惑をおかけ致しました。特筆すべきは、亡き中村キヤ校長（以下は校長と記述）そして中村信夫教頭（以下は教頭と記述）の両先生が関東支部同窓会活動への力強いご指導・ご支援を戴いた事で、当時は運営の方法も解らず、また、私的にも慣れぬ都会での会社生活を苦勞する中で同窓会活動も厳しい状況でたしが、昭和54年総会の懇親会の席上だったと思いますが私に、校長が『関東支部の会員が一人でもいる限りその同窓生の為、また後輩の為そして学校の為にも同窓会は継続して欲しい』と話された事。校長と教頭が関東の卒業生が在籍する企業そして卒業生に直接連絡を取り同窓会参加を促す活動をして戴いた事です。その行動が実り、56年だったと記憶しておりますが、池袋の「東邦会館」で支部総会を開催した折には、180名強（お子さんを連れも散見できました）の出席者が集いました。その時の事は今思い返しても万感胸に迫るものがあります。その後も、関東支部の総会は80人前後の参加で推移し総会が成功裏に開催された折も、その様子等を会員に知らせ同窓会の存在感と当事者意識を喚起してはどうかとアドバイスも戴き「光る星東京」の新聞を発刊した事も有りました。その後、校長が一線から身を引かれた事や社会情勢の変化もあり、総会出席者も激減しております。新たな組織構築を目指し学校の協力を得て支部の名簿などを纏めていますが「個人情報保護法」の壁があり活動にも期待する成果が得られないのが残念ですがそれでも支部は現在313名の会員と役員8名で何とか支部の体面を保っております。校長の想いを受け継ぎ、今後のため組織を再構築し円滑な運営をしなければなりませんが残念ながら、役員が足りてない現状で会員の皆様方には支部活動に積極的な参加と同時に一層のご協力をお願いしたいと心から願っております。支部はこれからも、学び舎から巣立ち年代を超越した同窓生が更なる友情を構築していくことを目標に「和顔愛語」の精神を持ち、活動致してまいります。

最後に、本部役員の皆様方には情報化時代の昨今、同窓会名簿の在り方一つにしても、難しいことは多々あると思っておりますが、伝統を引き継ぎながら、知恵を出し合い歴史を積み重ねていただきたいと願っております。



関東支部総会並びに新卒者激励会



関東支部の皆さんとの懇親会にて

同窓会からの寄贈

時計塔

平成20年5月9日

光星学院高等学校

60周年記念事業で同窓会より寄贈



生徒会館

昭和63年3月26日

光星学院高等学校35周年記念事業で

同窓会より

1000万円を寄贈

同窓会入会式



平成20年度総会 新築校舎披露

正面玄関での受付



オープンスペース

オープンスペースでの新築校舎説明

同窓会総会の様子

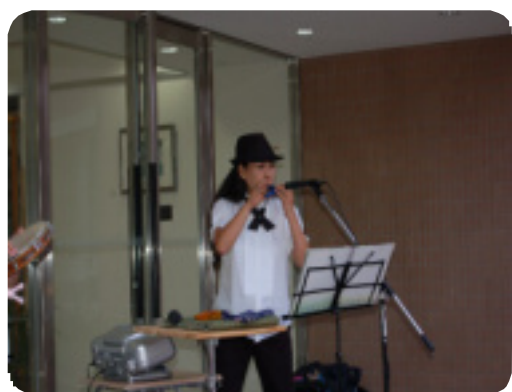
アトラクション



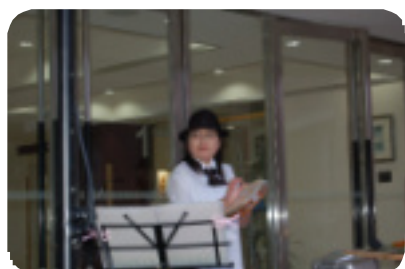
トランペット演奏



チアリーディング部による演技



オカリナ演奏
(昭和48年度卒小比類巻敏子)











索引

- | | | | |
|----|--------------------|----|-----------------|
| 1 | 表紙・校歌 | 28 | モニュメントの紹介 |
| 2 | 理事長・校訓 | 29 | 卒業の思い出（今昔物語）1 |
| 3 | 建学の精神・教育方針 | 30 | 卒業の思い出（今昔物語）2 |
| 4 | 理事長祝辞 | 31 | 卒業の思い出（今昔物語）3 |
| 5 | 学校長祝辞 | 32 | 卒業の思い出（今昔物語）4 |
| 6 | 同窓会会長挨拶 | 33 | 卒業の思い出（今昔物語）5 |
| 7 | 事務長祝辞 | 34 | 歴代同窓会会長、役員名 |
| 8 | 八戸学院光星高等学校の変遷 | 35 | 現同窓会役員からのメッセージ1 |
| 9 | 叙勲者・功労者紹介1 | 36 | 現同窓会役員からのメッセージ2 |
| 10 | 叙勲者・功労者紹介2 | 37 | 現同窓会役員からのメッセージ3 |
| 11 | 叙勲者・功労者紹介3 | 38 | 現同窓会役員からのメッセージ4 |
| 12 | 叙勲者・功労者紹介4 | 39 | 現同窓会役員からのメッセージ5 |
| 13 | 主な卒業生の紹介（町村長・議員等） | 40 | 現同窓会役員からのメッセージ6 |
| 14 | 主な卒業生の紹介（オリンピック出場） | 41 | 現同窓会役員からのメッセージ7 |
| 15 | 主な卒業生の紹介（プロ競技選手等1） | 42 | 現同窓会役員からのメッセージ8 |
| 16 | 主な卒業生の紹介（プロ競技選手等2） | 43 | 現同窓会役員からのメッセージ9 |
| 17 | 全国大会団体優勝者紹介1 | 44 | 久慈支部・三沢支部紹介 |
| 18 | 全国大会団体優勝者紹介2 | 45 | 十和田支部紹介 |
| 19 | 全国大会個人優勝者紹介1 | 46 | 関東支部紹介 |
| 20 | 全国大会個人優勝者紹介2 | 47 | 同窓会からの寄贈 |
| 21 | 全国大会個人優勝者紹介3 | 48 | 同窓会入会式 |
| 22 | 硬式野球部甲子園大会全勝戦績 | 49 | 同窓会総会の様子1 |
| 23 | 第104回全国高校野球大会の戦況 | 50 | 同窓会総会の様子2 |
| 24 | 主な卒業生の紹介（プロ競技選手等3） | 51 | 同窓会総会の様子3 |
| 25 | 懐かしき校舎1 | 52 | 同窓会総会の様子4 |
| 26 | 懐かしき校舎2 | 53 | 索引 |
| 27 | 創立当時の写真 | 54 | 編集後記 |

編集後記

資料収集では各方面にご協力戴き感謝申し上げます。

今回の記念誌発行に当たり、発行の趣旨はあくまでも同窓会の活動を記録するとともに、対外的にご理解いただく事にあるため、参考にする印刷物はなく独自の形態を模索いたしました。

同窓会総会が60回を迎えるにあたり、初回総会を何時何処で開催したか等の記録を探りましたが発掘できず、できる限りの収集資料からの発行となりました。発行時点での不明な事項はご了承承戴きたいと思っております。

第60回総会記念誌発行記録

発行年月日：令和4年10月7日

発行：八戸学院光星高等学校同窓会

青森県八戸市湊高台六丁目14番5号・電話 0178(33)4151

編集 製作

八戸学院光星高等学校同窓会第60回総会記念誌編集委員会

発行責任者：安井基悦

製作統括：高橋隆一

参考資料並びに引用文献

八戸学院光星高等学校保存資料及び同窓会保存資料より

記事掲載協力：デーリー東北新聞社・東奥日報社